究放録

昭和十一年二月上浣起筆

二

特別
14
1919
419

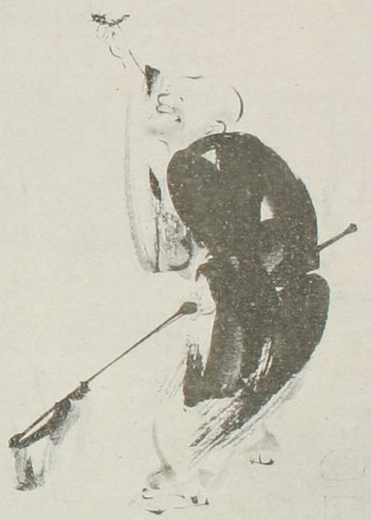
176684

寛政紀二

眠和五年二月上浣起筆

○日本の昔しの旅は乾き旅い憂きことのつらひことあと
いふけれども、さんハ一面をのみ見以旅しやうとおもふ
ハ旅そも無味のものとおもふ。毎○見るまゝあが愛心
ともまゝきでもつへ。偖かばうの心つけをよんで行脚の
蹤心を深くも直さ雑やき出し、風呂の使ひ早く
くる、番頭やさんが叩頭した用をきくまで来る。手を
新らしき世中が打盛わり顔を生す、更らさ
茶代を氣強んで新屋さ玄関を所さ駕くなる

一絲圖師筆　硯子和尚圖



別府金七氏藏

38 9205

流れひわされるのかもしれない。風が吹いて、葉が軒ひくし
るいのもここで二夜三夜と泊まるかもしれない。日本
風の旅館があれば、そこに移って畳に寝て保養をすることもできる。
酒なし難飯四畳の上で寝て保養をすることもできる。
日本旅館の不完全や心付けが要るのもけんとんも不便両
とかいうて美しく広くのびのびした日本の団欒に接んでみるか
らである。実の美しい丈の倚快があるからである。日本お
宿の旅館には必ず客の女中が居て、酒飯の
給仕をする、寝具の敷き延べをする外出のあと
の取片づけをする、不時の来訪者あれば
酒食の立ちとりを計らう夜間も怠らず寝酒
位の飲める出客の荷物を持つ手伝もする、万

標準製

子のカエータール較べると
まるで細かいところまで行き届いて、
といい、西洋旅館のカエーターなどは
けのもの、実の美代の屋
洋館がある。日本の旅館
部屋は仕用料が
つて四畳半が定まっている
れを定めるのである。一室
僧かれ狭い一室丈であるのと
みてるから、よい部屋の初を渡具一切
方に吟味してあることも
在する美代を抑えること
子のカエータール較べると
まるで細かいところまで行き届いて、
といい、西洋旅館のカエーターなどは
けのもの、実の美代の屋
洋館がある。日本の旅館
部屋は仕用料が
つて四畳半が定まっている
れを定めるのである。一室
僧かれ狭い一室丈であるのと
みてるから、よい部屋の初を渡具一切
方に吟味してあることも
在する美代を抑えること

こゝにあるのだ。亦地位ある人々が敢て茶代を払ふを厭は
ぬ所以もこゝにあるのだ。何も気分の問題である。よい
気分を求むる為めに価を多く払ふても遺憾はない
筈である。自分は嘗つて汽車と旅館の連絡を論
じ、旅館は汽車の延長であると云ふたが、旅客に安
息を與へる旅館は汽車と異なる所がなけ
ればならぬ。旅館は一時的の家庭と見るべきものであるか
ら、おのづから趣味が無ければならぬ。そこで観ると西洋
旅館は確に汽車の延長で宿泊の室も車中の室
と一般唯だ其の座席を大きくしたに過ぎぬ、車中の寝
台其物の如くである。いくら旅館は汽車の延長でも
そうまで車内と同一であつては困る。殊に車中では心を

許し難い[redacted]化へはかりで蔵多を語ることは出来ぬ。
旅舎と落着いても所は一室におさまつて鏡を観し
語る人もなく何をするも車中の寝室の如くであつ
ては行旅の倦を慰むる所に隔てし、来りといふことがなき
気分の高しやうもない。その住居の論や芸術家の
旅行は全く別としても、趣味の上から論ずると日本式の
旅館は西洋のに優つてゐる。長く西洋に居る人でも
も西洋の家庭は時には閉口しても好くことを忘れると
旅館に就て思ひ出すのは過ぎしことがあるのである

自分は西洋に出かけたことがない。併し西洋旅館に宿泊
した経験は或るもある、支那の燕京の北京飯店
或は東洋一と称せられ、日本にも之れと比すべきもの、ものは

無日の位牌大のようであるの自分の家と定めた所は二十
畳も敷居もあるみれば衣類棚もあり四畳
当もあり、鏡や整髪具もあり、机をおくテーブルもあり
一切が備つてあり、渡台の際ろくに活き字の布団
寝具、雪白の蚊帳やが吊されてあつて枕頭に電
話機も据付けてあるの室に隣つての一室が附属しまた
浴槽があり、洗面所があり、便所があり、給仕を使ふ
等まで備つて、日光の充分入り申分の無い気持
のよい部屋であつた。まるで金持の新婚旅行と
で、話をきいても俺も一度は金を貯めて自弁主義
へ此時ばかりも行つて見たいと思つた。西村の招待
で朝から晩まで外出をせずにゐた。引き続き

標準製

を感ずる事も無く済んだが、これが若し病気であつたり
したらどんなものかと思はれた。先ず入院料
日本旅館の方が人間の待遇がいゝ。多分そうだろう
何分新婚旅行で、終日布団の中で初めて
ひりしたり

○古い友と新友と

持つてやると、先方へ帰つてからも
本当に持ちやつて来るかどうかは
時と分かる。日本銀行へ勤めてゐる
のだが、取扱方が迂遠で、例えば、
高五十円、おしく金額のあるものでも

るいことが往々にあると考へて、今更ながら支那の行政が
そうで居ることと想れ切らるを得ず、茲に附せんと
日本の郵政の創始者から今日まで引き続いて
とを述べ、自分らも亦もつかんでおれこ
とながら、日本の信書を重んずる風
民道徳があるため、死物と托する時代でも信書を大切
ある訳なり。かようなところが支那の
鉄の如き規律があるのを見ても如何に気がついて
郵政の創始者と行いまいことをするものも
素あるが故であろうと感じた
○昨日四谷の平山堂を訪ふの画する所、蔬菜禽獣等
趣あり、其の蓋裏に大正九年癸酉夏雄壮年の作と
寅小春月とあり、夏雄の作歌まで
年とある、其の作品頗る
を示すもの珍重すべきも
の金箔を張り其上に春画の
印二十四歌を捺し印譜を
一丁角と満さるる刻いたる印顆
信風画印とあり、各印ごとに
ある景物、歌詞のごとき
印を推考すべし

陸奥松窓秦玉琴

水荇帝風四年世本長

芙蓉頻来酬戯
皎如玉樹臨風前
温泉水温洗凝脂
旦将国香新徘徊
一架蒼蘢満沢香
碧紗如煙隔宮墻
緑楊宜心両家春
春風不度玉門関
倒尊君勿忘帰客
沈香亭北倚闌干

○李の銀生街歌散策中先づ所曰く北溟楽天の世相諷刺絵をのぞき牛乳配達の学生の回覧に云く

笑倚東窓白玉床
皎如玉樹臨風前
芙蓉向臉両辺開
荷池雨後香気起
細数一笑百媚生
武人相憶五江梅
何用則琴方外去
玉人行客数吹簫
一夜扁舟花草月
列岸垂楊両留情

棟原製

牛乳を飲む学生らを配達夫と、一店宣伝宮と雪達磨の学生との降雪との人が五の内を雪を込つて渡口前お也一店と渡世修四五枚を投ると人を驚す、常日目を閉ち那也春遠を越切り枝をなすかい向く表情の美人と一見時の北の句の河十数の小品手ま人の骨並ぶ玩具品業組合と称ちなる大隈老侯の銅像の寄贈也こ如正光の

牛乳を飲む学生らを配達夫と、一店宣伝宮と雪達磨の学生との降雪との人が五の内を雪を込つて渡口前お也一店と渡世修四五枚を投ると人を驚す、常日目を閉ち那也春遠を越切り枝をなすかい向く表情の美人と一見時の北の句の河十数の小品手ま人の骨並ぶ玩具品業組合と称ちなる大隈老侯の銅像の寄贈也こ如正光の

銀杏離れ

心と手、往年大限度の方像メダルを作りて成功し、背
葦の部、西花壇の
（陳列）
遺産の吐像あり、銀杏扇に海くり海老の色鏡
あり、海老の紫の色と金也、松の木肌をあらしたる
鳥の香合、お面の時代もの也、金金蝦蟇の
基架、新作なるも体制可也、玩具ある土焼
アイヌ人形二點、一八三七年アイヌの面目を描写する
ものとの意の作なるも年の深浅と変化を異にする
ものあり、椿を底仲しも玩具奇地を知らざれ
りなかなり年と名く、外人の土産なる時と
るものの日本の風俗に関するものあり、時日

（標原製）

標原製

漆塗の小さなボテルの蓋りあるを猫れかえとも
り歩くるもの婦人仏車と乗り連ちこみをひく
の玩具あり、紙と印刷したるもの、婦人にお辞
なる日和傘の如き立体こ、北の尚二三面あれども略す

二月八日記

○旧友人余の為めに春城会を催し、余の祖父辰吉
日会合を約す、河に臨みたるの
会する者八人の外新聞記者を加へ
自身人の為めに斯の会を開くこと
一二ヶ止まるも、往年前略男の為めに白眼会を
開きたるに会する者男奇晩年の寂寞を
慰安とする如き意なりし、玉山亀生玖後

日本文学のリラレックと見るべきものの、内容は今の世の中には漫談校のような程の随筆ではあるが、七代随筆と題名を付けるべきものの内容はこんなものが丸で興味もなく且無味乾燥なものである。今校の筆者は書きとばしとくべきものと思う。吉野川成と云う人は、金が随筆に銭の事を記した時、花を文を引くことを得さりしの補正するものと云って原文を改めて

今はあの川成という人の

世にうずもれき）書きたる、滝殿の石も吐川城がかれてなくなりぬる事、吐川成が書ける也。さて世にうずもれきこと也、武蔵野をも、つくりしなるべし、北立川城を中よくて谷の蓑を払みそれの通せるがあるときき立川氏いえし、我家は、一向四面の書をも、又歴を絵書を得さも検くもふ成やかて立川が家を行れ見るれ、松のしげるふきを書ける、四道の戸隆あきらう、立川書と入れ方を見ると、南の戸明入ると、八丸と

四

閉づ、おどろきもえくも西の戸はひとりでに閉て、南の戸は北の戸も
いつとなく人の出入ありしに閉て西の戸のみ
来の戸を入らんとすれども、其戸は閉て、北の戸
閉ざり、かくあまたを、いで入らんとするも、閉つ
つ、入ることを得ず、其時川成初めて、と思ひ
てかくりぬ

川成の仕返しの死屍を畫いて工匠を驚かしたる
記事あれども、其の戯れの戯れ
婦人のうき涙おのづから
たるます

或る日先輩の一詩に牛車を乗りて賤しからざる

複原製本

さる美妙人婢を以て
入、病いと深く、恥て
病を救れんと
かやうにもてなしとつて
嬉毒を、医師の思ふ
受けこと身を任して
れて妻婦となすまじ
とめて回復る
へを言れ
て何万
ならかこと
とも告げず

双方数年疎遠する間にあい気操をおする能いず流離中一百人と会遇中ぜん兄をめぐん、遂に其の妻となることを主義をさえなかあんせちの如くなることを遂に、良人くるまの性をつかず、日実を吐きるが運の尽、其の良人なることかねるも、死も亦死すといふ遠況

おとも北都也

○自分の親族を人に称して呼び妻を悪らせるの語なり。

おとも北都也

○自分の親族を人に称して呼び妻を悪らせるの語なり。

△

ある好みのおのこ客参りの折、社頭にか
ヅキを出殺もん婦人ご会し其客を
よろこび例の廃事
自分も妻なれども酔帰るんぺ直ち放逐
すべきもの妻が自分ことを悪ろ流せよ
と諭ふし、其の婦人出きも終ち手を以
つて引ー〳〵其の男の面部を撲ち懲しめ
よろ〳〵打手を忍んぺ妻のご客ごとを
家ぬる為めの良人ご仕業をすの

△

△

△

△

標原製

遠く佃君同志が集まると、氏が良人を愚亭と呼ぶことが行われもすることと思くても自分を愚かしとも
頃多忙の礼の席に招き、それで旅装の儘自分を愚亭主会へ入会ーするかという人があった。自
分のものごとを思うことが多いと云う所、愚亭がこのそれであることを知ってか知らずか亭主を愚亭と呼ばる
ようである云々、平素利かぬ気の性質も無く、日本もいバ無らうと思ふ位、保し愚亭と愚妻という報復
ルと思(ハ不器儀もるる譚なる入会を勧めた男が福地信世で、福地桜痴の

標原製

ある。初めて逢うた人と面
識のよく就て似もある、第一の印象を鋭利な才気
と古い言葉をやってみる、話次第で極端
な士の角度の脚本を平気で書きそうな人柄
ことも話しぶりで信世の一面をうかがい知る事が出来る。
から出たまかせ、気をとり直して
ばかり一人の手ぎわをみせる
右かまいと自ら云うも方々で数々もある
〇偏と闇と得て、骨董を探す、後の
ような純金を寄せ集めた銀貨のあるあるある
る気のいた大きなる数枚これきりかと思
小品漁りで獲たものと会すると五十銭位そのあるある

御賜三組大銀杯 乗誠院様ご成人の時
梨本宮下賜銀杯 ご誕生の時
大花瓶 盛花瓶 還暦を祝ひ為
銀縁写真 大隈老侯写真入
三組銀杯 大隈侯爵家
亀置物 北欧行御紀念の為
置筆 七福の祝に大隈邸
重形菓子器 にて
書帙形銀器 海浮子紀念品
御紋章入柳葉形菓子器 徳川頼倫侯紀念品

横原製

御紋章入二重葉形菓子器
李王家紋章入提箱形銀器
連珠紐大形銀印 日本国古銀印
山形菓子器 内苑大宴紀念品
方形日上
大隈老侯古像入おりん 早大師範部紀念品
同 紀念メダル
香筥
葉形 早大紀念品
同 桐葉模 菊花細刻中大アカ
浄瓶心水杓共箱
水滴

大隈家那部子爵未

琵琶香合
琵琶書鏡
櫛中菓子皿（箸つき）
松　香合
蓬屋香炉
海鳥文二扇書鏡
扇文松蜜香鏡
外面紫切手彩花文
僧提籃立像　外面紫
扇形物入
馬蹄銀二
靴形胡椒入　外面紫

藤原製

支那紫龍の下ヶ物
香筥
枝折二　秋田紫三
花籃　一寸五分
灯　三寸五分
カップ　三
スプーン　外面紫
カニザル二
銀ベリ猫茶器　外面紫
銀銭
日本式烟草入　下ゲ
犬　下ゲ

盃　外四盃　手利宮彦所蔵

スプーン半打　外四本　三枚四揃一所蔵
（各別）

岡形栃本八

一輪生

前田家紀念品

菅笠を押す人物　支那製

下村正太郎紀念室の額

烏帽子中啓文鎮

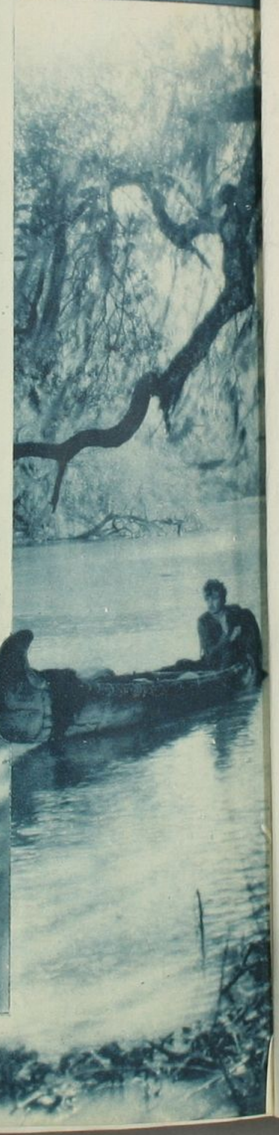
序に金盃を洩らさず、校友会から贈られた金杯　早大紀念の金盃　大隈副総裁夫人より贈られた大隈侯銅メダル　早大金貨二十枚（二百円）金製十時計（三百円）金製角

複写製

の国費金紙婦人教員其他一行を載せたる
○昔し茶香で有名なりしエヴァンヂエリンとがブリエルの悲劇を今の映画で
さらさら今の映画で
歌を布告しても 両時英国の欽ましかりし
画のアボカー 北方八仲間人の血統が多かつたのか
我を流さうとの 一村の住民拳げて追放
とする其際 おもの
流離の旨に 救かしめぐる
をもつり、流石におもしろき時の移るを知らざる
つた。同車の舟中の人ハがブリエルや、同し川を上ヴ
アンヂエリンも みなの（通）ハそろそろ（通）の

樂邦座

Ⅲ 6



プログラム

（二月七日より
二月十三日まで）

一、パラマウント發聲ニュース（45）

説明　榎本健一

二、青春の幻想

説明　吉野遊峯
　　星野克己

詳細は次頁をごらん下さい。

休憩二十分

ピクター・レコード演奏（次週上映「レヴュー結婚」中のヘレン・ケエンの獨唱「ちやないかね？」「どうせ貴方は私のものよ」）（二二一九二）

三、歌劇抜萃二篇

パラマウント短篇發聲映畫

A、**ファウスト**（グーノオ）

メフイストフエレの獨唱「黄金の犢」マルグエリットのエリア「寶石の唄」ファウストの獨唱「卑しき汝を讃ふ」及び「牢獄の合唱」紐育パラマウント劇場樂劇部出演。紐育パラマウント劇場シムフオニイ・オーケストラ伴奏。

B、**眞珠採り**（ビーゼエ）

「ネイデイアの唄ふアリア」紐育パラマウント劇場樂劇部出演。紐育パラマウント劇場シムフオニー・オーケストラ伴奏

四、エヴアンヂエリン

説明　金子晴洋
　　瀧田天顧

インスピレエション社製作。ユナイテツド・アーチスツ社發賣サウンド映畫。ヘンリイ・ウオズウオース・ロングフエロウの名詩よりフイニス・フオツクス氏脚色。エドウイン・ケリユウ氏監督。ロバート・ビー・クロール氏並にアル・ジー・グリーン氏撮影。ヒユウゴオ・ライゼンフエルド博士選曲並に伴奏指揮。ウエスタン・エレクトリック・レコード式發聲映畫。一九二九年八月廿四日米國市場發賣。

配役

エヴアンヂエリン　ドロレス・デル・リオ孃
ガブリエル　ローランド・ドリユウ氏
師父ファエリシアン　アレツク・ビー・フランシス氏
バプテイスト　ドナルド・リード氏
ガブリエルの父ベエジル　ジエイムス・マーカス氏
エヴアンヂエリンの父　ボオル・マカリスタア氏

梗概

アメリカが未だ英國の屬國であつた頃、アカデイー地方のグランド・プレの小村にエヴアンヂエリンといふ娘がおりました。同じ村の青年ガブリエルとは相思の仲であり、親達も之をゆるして二人は結婚をする事になります。然るにアメリカの諸殖民地占有のことから英國と佛國との間に戰爭が始まり、アカデイーの住民にも英國からの執政から召集が下りますが、彼等は佛國からの移住民が多く、殊に絶對に平和を望んでゐたので、之を拒み、つひに執政はアカデイーの住民を南方に追放致します。住民は永年住み慣れた平和の村を逐はれ、彼等の家は悉く燒かれてしまひます。そして無慘悲な兵のため、村民は親に離れ、兄弟と別れ、別々の移住地に送られますエヴアンヂエリンは父に死なれ、愛人と別れてしまひます。その後彼女は師父に連れられて、長い年月ガブリエルを探して旅を續けてゐますガブリエルも亦單身エヴアンヂエリンを探して旅を續けてゐましたけれどもつひに彼等は會へませんでした。やがて二十餘年の後、今は老ひたるエヴアンヂエリンは、フイラデルフイア市に、おそろしい流行病にたをれた哀れな人々をなぐさめに來て、そこに測らずもガブリエルを見ました。ガブリエルはかすかに眼をひらいて彼女に昔の唄をうたつてくれと希ひます。老の眼に涙をうかべてエヴアンヂエリンは若い頃ガブリエルの爲に唄つた歌をうたひます。そして神に感謝をさゝげます。

榛原製

だから我々は左右両端の中央に立つて、どちらの敵でも味方でもなく、飽くまで正義人道を守る事にする。

然しそんな事をおつしやる人達よ。今に戦争が烈しくなつて、左右両軍の接戦となる時、諸君のお好きな『中央』の『人道』が、何処にどれだけ残つて居るでせう。その時、諸君が若しいつまでも去就を決しかねてお居でになると、或は両軍の真中で、踏みつぶされる様な事になるかも知れませんぜ。

× ×

甲『所得税の免税点は、我々小商人の営業収益税の免税点よりズット高い。ナゼだらう。

乙『それに月給取は、ツイ先達て減俸反対運動でも見事に成功したぢやないか。

甲『そうだ。全くだ。我々はナゼこんなにつまらないだらう。

丙『然し諸君、これにはワケがあるぜ。俸給生活者中にも小月給取は、近来だいぶん団結といふ事を學びかけて居るやうだ。あの人達は近ごろ、無産黨の尻押しもやりだしたようだぜ。

甲『世間でよく、戦争でもうける〳〵と云ふが、一體、誰がもうけるのだと君達は思ふね。

乙『もうけるのはいつでも金持ばかりサ。

丙『貧乏人は昔からくたびれもうけと相場が極まつてるんサ。

甲『だけど君、戦争には一體、誰が出かけて行くのかなア。

乙『大抵は我々の様な貧乏人の子弟サ。

丙『僕も今年徴兵に取られるよ。

乙『そうか、君もか。僕もだよ。

甲『そうか、皆んな元氣でいゝなア。時に君達は今度の選挙で、誰に投票する積りだい。

乙『だつて僕にや選挙権なんぞありやしない。

甲『ア、そうか。選挙権が無いのか。

乙『だつて、僕等はまだ廿五歳以下なんだもの。

甲『然し君おかしいなア。既に丁年で兵役の義務があるのに、まだ選挙の権利が無いとは。

丙『全くだ。考へて見ると本當にツマンナイ。

乙『ツマンナイ、ツマンナイ。こんなツマンナイ事アありやしない。

○佐藤善吉君の家をやぶる。
バラくやつてくる。無産童子の家が遠い家と
が、善吉君の家、まだ無産童子のものゝ
と、こんなのゝ目一ぱいまでも下層社会
ある。彼も改善自身をして
の赤紙が

複原製

選擧戰一口ばなし

堺　利彦

虎に食はれるが好いか、獅に食はれるが好いか。兎答へて曰く、どつちにしても私の命は無くなる。

民政黨がいゝか、政友會がいゝか。貧乏人答へて曰く、どつちみちおれ達の血と膏は搾り取られる。ぬれ手拭を搾る時、左ねぢりにしても、右ねぢりにしても同じ事だ。民政黨と政友會の違ひは、丁度そんなものサ。

×　×

政府は人民の生活を世話するといふ。然し人間が庭鷄や牛を飼ふ時、矢張り生活の世話をしてゐる。そして人間は牝牛を飽つてその乳を搾り、庭鷄を飼つて其の卵を取る、乳をシボリ、卵をトル、そのシボリトル事、即ち搾取する事が、その場合、生活の世話の目的である。

資本家は勞働者をシボリ、地主は小作人をシボリ金持は貧乏人をシボリ、○○は○○をシボル。

×　×

昔の政黨は、一般一民を代表したものだ。そして自由民權のノロシを擧けて、壓制政府と戰つたものだ。

所が、今はどうだ。民政黨でも政友會でも、全く金持政黨ぢやないか。一般人民の事なんど振りむいても呉れやしない。

昔の自由民權の精神は、即ち今の無產階級運動に傳はつて居る。今の無產黨が即さ昔の自由黨改進黨の後繼なのだ。

昔し曾て自由民權にあこがれた人達なら、せめて今日、無產黨に投票すべきぢやないか。

×　×

『オイ兄き。危險思想とか、危險人物とか云ふナアあれは一體、何の事だい。

『何アにね、あいつらア貧乏を退治しようツて云ふんだ。貧乏といふものを一切この世の中から無くしようツテ云ふんだ。

『ヘエ！　それほど結構な事ア無いぢやないか。

『だがね、貧乏人が無くなると、金持も無くなるんだ。金持の金は、あれはお前皆んな、貧乏人から搾り取つたんだよ。だから金持がキケン人物を目の敵にするんだ。

『あゝそうか。それで分つた。ぢやキケンと云ふナア、金持にだけキケンなんだね。宜しい。ぢや、オラア今度、キケン人物に投票するよ。

×　×

國家といふものは實に美しいものだ。共同生活の大家族だと、ソウいふ。

然し、そんな結構な共同生活の中で、一方には行倒れになつたり、餓え死にをしたり、親子心中をしたりする者のある時、一方には、贅澤のしほうだいをしながら、默つてそれを見殺しにして居るのは、どういふわけだ。

×　×

世の中は總て貧乏人と金持の戰ひだ。金持は札の數で貧乏人を撫で斬りにするが、貧乏人は頭數でそれと戰ふ。

札の數では、云ふまでもなく、貧乏人は金持にかなはないが、頭數で行くなら、あんな金持なんぞ、おれたち貧乏人の足元にも寄れやしない。

×　×

日本は菊の國、櫻の國で、こんな美しい國は外にないと云ふじやアないか。

そうだ、全くだ。然し君、日本は又、地震の國、火山の國だよ。こんな恐ろしい國は外に無いかも知れないよ。

そうだなア、そいつア困つた。

何も困る事はないよ。その位の底力があるからこそ、俺達の日本ぢやないか。それでこそ、俺達貧乏人の芽を吹く時節も來ようと云ふもんだ。それでこそ、あの金持共を吹飛ばしたり、ユリつぶしたりする見込も立たうと云ふもんだ。

×　×

我々は金持でもないが、萬ざらの貧乏人でもない固より大した有產階級でもないが、丸はだかの無產階級でもない。

▼裏面へつゞく▲

樣原製

だから我々は左右兩端の中央に立つて、どちらの敵でも味方でもなく、飽くまで正義人道を守る事にする。

然しそんな事をおつしやる人達よ。今に戰爭が烈しくなつて、左右兩軍の接戰となる時、諸君のお好きな『中央』の『人道』が、何處にどれだけ殘つて居るでせう。その時、諸君が若しいつまでも去就を決しかねてお居でになると、或は兩軍の眞中で、踏みつぶされる樣な事になるかも知れませんぜ。

×

甲『所得稅の免稅點は、我々小商人の營業收益稅の免稅點よりズツト高い。ナゼだらう。

乙『それに月給取は、ツイ先達て減俸反對運動でも見事に成功したぢやないか。

甲『そうだ。全くだ。我々はナゼこんなにつまらないだらう。

丙『然し諸君、これにはワケがあるぜ。俸給生活者中にも小月給取は、近來だいぶん團結といふ事を學びかけて居るやうだ。あの人達は近ごろ、無產黨の尻押しもやりだしたようだぜ。

甲『なアるほど、我々にはまだそれが出來て居ない乙『こりやアいかんぜ諸君。我々も一つ大いにやらうぢやないか。

丙『そうだ、全くだ。小商人の團結が必要だ。一つ諸君、無產黨を支持して、彼等と提携しようぢやないか。

×

『我々の住宅は我々の城廓だ。

『城廓とは據つて以て敵と戰ふ場所である。

『だから我々は飽くまでこの城廓に立てこもつて、先づ敵の家主と戰ふ。

『そうだ〳〵。安々と城を明け渡すは我々の恥辱である。

『そうだ〳〵。同志よ、借家人よ。飽くまでも我々の城を守れ。そこに居住權の確立が生ずる。

『然り然り、大いに然り。諸君、凡そこの住宅なるものは、我々市民の、個人的自由の基礎である。從つて居住權は神聖不可侵であらねばならぬ。

『然り〳〵、大いに然り。家主をして濫りにこの神聖の領域を侵さしむること勿れ。居住權確立萬歲！

借家人同盟萬歲！

×

甲『世間でよく、戰爭でもうける〳〵と云ふが、一體、誰がもうけるのだと君達は思ふね。

乙『もうけるのはいつでも金持ばかりサ。

丙『貧乏人は昔からくたびれもうけと相場が極まつてるんサ。

甲『だけど君、戰爭には一體、誰が出かけて行くのかなア。

乙『大抵は我々の樣な貧乏人の子弟サ。

丙『僕も今年徵兵に取られるよ。

乙『そうか、君もか。僕もだよ。

甲『そうか、皆んな元氣でいゝなア。時に君達は今度の選擧で、誰に投票する積りだい。

乙『だつて僕にや選擧權なんぞありやしない。

甲『ア、そうか。選擧權が無いのか。

乙『だつて、僕等はまだ廿五歲以下なんだもの。

甲『然し君おかしいなア。既に丁年で兵役の義務があるのに、まだ選擧の權利が無いとは。

丙『全くだ。考へて見ると本當にツマンナイ。

乙『ツマンナイ、ツマンナイ。こんなツマンナイ事アありやしない。

×

A『オイ君、君は三輪車庫だね。今度は誰に投票するんだい。

B『僕の方ぢや東京無產黨の中西君さ。君の方は？

A『僕の方は、新宿車庫だから、あの方面では先づ堺の親爺さんサ。

B『おゝそうか。そいつアいゝなア。ぢや、ヤツパリ東京無產黨ぢやないか。

A『そうだ。おんなぢ黨だね。こいつア面白い。中西さんはよく働いて呉れるかね。

B『あゝ、あの人は中々人氣があるよ。あの人は機關車の掃除夫をした事もあると云ふからね。

A『そうかい。ぢや、ヤツパリ勞働者出身だね。嬉しいぢやないか。

B『だからさ、僕等は一生懸命あの人をかついでるんだ。堺の親爺さんと一緒に二人とも是非だしてやりたいもんだね。

A『全くだ。お互ひに一つ、大いにやらうよ。

B『やらう〳〵。そしい大いに我々の『交通勞働』の權威を示すんだね。

（責任者　小石川區八千代町三十三　吉川守國）

○四年ぶりの選擧と聞くとそこに興味の多くの自分は五月廿日の（選）擧に就ても忘れ出かけようとはしない。大紀摸の（選）擧は、前年大戰爭が前年に比べて殊に今度の（選）擧は、永く（選）擧の始まつて以來の（選）擧である。自分の體驗し記錄さるべき價値のあるものと信ずる。

甲『なアるほど、我々にはまだそれが出来て居ないうぢやないか。

乙『こりやアいかんぜ諸君。我々も一つ大いにやらんけりやならぬ。

丙『そうだ、全くだ。小商人の團結が必要だ。一つ諸君、無産黨を支持して、彼等と提携しようぢやないか。

× ×

『我々の住宅は我々の城廓だ。

『城廓とは據つて以て敵と戰ふ場所である。

『だから我々は飽くまでこの城廓に立てこもつて、先づ敵の家主と戰ふ。

『そうだ〳〵。安々と城を明け渡すは我々の恥辱である。

『そうだ〳〵。同志よ、借家人よ。飽くまでも我々の城を守れ。そこに居住權の確立が生ずる。

『然り然り、大いに然り。諸君、凡そこの住宅なるものは、我々市民の、個人的自由の基礎である。從つて居住權は神聖不可侵であらねばならぬ。

『然り〳〵、大いに然り。家主をして濫りにこの神聖の領域を侵さしむること勿れ。居住權確立萬歲！

借家人同盟萬歲！

× ×

A『オイ君、君は三輪車庫だね。今度は誰に投票するんだい。

B『僕の方ぢや東京無産黨の中西君さ。君の方は？

A『僕の方は、新宿車庫だから、あの方面では先づ堺の親爺さんサ。

B『あゝそうか。そいつアいゝなア。ぢや、ヤツパリ東京無産黨ぢやないか。

A『そうだ。おんなぢ黨だね。こいつア面白い。中西さんはよく働いて呉れるかね。

B『あゝ、あの人は中々人氣があるよ。あの人は機關車の掃除夫をした事もあると云ふからね。

A『そうかい。ぢや、ヤツパリ勞働者出身だね。嬉しいぢやないか。

B『だからさ、僕等は一生懸命あの人をかついでるんだ。堺の親爺さんと一緒に二人とも是非だしてやりたいもんだね。

A『全くだ。お互ひに一つ、大いにやらうよ。

B『やらう〳〵。そしい大いに我々の『交通勞働』の權威を示すんだね。

（責任者　小石川區八千代町三十三　吉川守國）

○○等ハ常ニ之ヲ深ク遺憾トスル所ナリ。然レドモ今回ノ選擧ニ於ケル我等ノ目的ハ主トシテ（一）選擧ニ就テ思ヒ出ガアルヘシ。自今ノ雄圖ハ、前年大阪府ノ首脳ガ其ノ金庫ヲ空ニシテ逃亡シ記錄サルヘキ僅ノ殘餘ノ金ヲ以テ、別個ノ選擧ニ參加シ、永ク其ノ市長ヲ出シ、以テ大阪市ノ選擧ニ於ケル大勢ヲ制スルニ在リ。

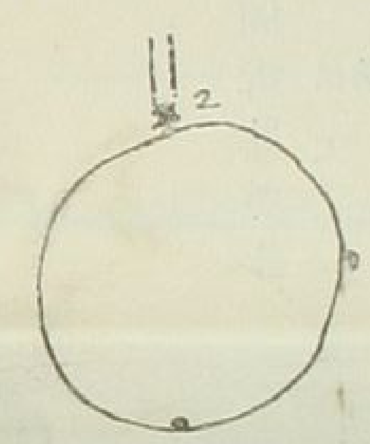
○○等ハ常ニ之ヲ深ク遺憾トスル所ナリ。然レドモ今回ノ選擧ニ於ケル我等ノ目的ハ主トシテ（一）選擧ニ就テ思ヒ出ガアルヘシ。自今ノ雄圖ハ、前年大阪府ノ首脳ガ其ノ金庫ヲ空ニシテ逃亡シ記錄サルヘキ僅ノ殘餘ノ金ヲ以テ、別個ノ選擧ニ參加シ、永ク其ノ市長ヲ出シ、以テ大阪市ノ選擧ニ於ケル大勢ヲ制スルニ在リ。

菱川師宣寄進の鐘銘を史蹟として指定せられん事を望む

島田筑波

菱川吉兵衛師宣が元祿七年に、故郷の房州保田村の林海山別願院に梵鐘を寄進したことは、古くは京傳がこれを發表してゐるし、近くはこの事に關し、たしか好古堂發行の「浮世繪」にも書いた人があつたやうに記憶する、然し、私は自からこの鐘を三度訪ねて研究もし、一また早くからこれを史蹟として保存したいことを發起してゐるものであるから、その理由を書いてみる、私が最初この鐘を見に行つたのは、今から十年前で、拓本家の中川行秀君と一緒に鋸山の頂上にある、櫻井雪館の碑銘大典禪師撰文をとりに行つたときに、風雨の中でこの鐘銘を三枚ばかりとつてきて、その中の一枚を廣瀨菊雄君にも頒けてやつたことがある。その後自分は洲の崎の明神から上總の一の宮に調査に行くことがあつて、鉈切明神の丸木舟を見るべく、再びこの保田村を訪づれて、別願院に詣でた、その時は深川靈岸寺に居られたと云ふ若い住持がゐて、座敷なども板敷であれはてゝゐたのが、一昨年芳野芳雄君を誘つて三度、鋸山に大口屋有翠の望海樓をしらべに行つたときに訪づれると寺は疊が敷かれて師宣の墓と云ふのも、古本商の井上喜多郎君が、保田に避暑に來られてゐて寄進されたと云つて、新らしく建てられてあつた。そこで私は携へて行つた田中喜作氏の書かれた師宣の事蹟の出てゐる「中央公論」をこの寺に寄進してかへつた。

その時記した鐘銘の書かれてある位置を示したものがあるから記してみる。



1

南無阿彌陀佛

寄進施主
菱川吉兵衛尉藤原
師宣
入道友竹
元祿七甲戌歳
七月吉日
房州保田村
林海山別願院
時住持欣入

2

南無阿彌陀佛

爲三界萬靈七世父母
菱川七右衛門
嫡同吉左衛門道茂居士　家來 ××道蓮 妙仲
岩崎甚左衛門法清
嫡　同　住兵衛　法圓
次　女　ヲタマ壽榮　大姉道茂室
次　男　同傳右衛門　法清

道茂子　アマ　千代　清空
ヲサタ　妙心
├吉兵衛妻妙×
├×イ×
ヲタマ
友竹――子――ヲヘ×如法
正之×
ヲカマ　式部村正膳寺室――妙林
佐次兵衛――沖之亟

かく記されてあるので、師宣一族のことはこの鐘銘によつてよく分るが、寺にはしば〳〵のつなみにあつて過去帳は紛失してしまつてゐるし、その墓石と云ふのもひどく風破してしまつて、碑銘が明でないので、誰れの墓とも判じかねる、しかしこの師直の寄進の鐘がこの寺にあるからには、この寺が師宣の菩提所であることには異論はないけれども、師宣はたしかに江戸で歿して江戸の寺に葬られてゐることは事實だ、私はこのことに關して早くから研究してゐるが、いまだにその墓地は發見されない、江戸座の俳人で旬樹庵五陵が本所小梅町の常泉寺で師宣の墓を發見したと云ふ事は或る本にも書いてあるが遺憾ながらその確證はあがつて居らない、處が房州保田村別願院の鐘銘は完全に保存されてゐて、師宣一族のことは今の處ではこの鐘銘が隨一の資料となつてゐる貴重の金石文であるから、時代は新らしくともこの鐘は史蹟名勝天然記念物の法規によつて、早く史蹟として指定して欲しい、また事實指定してもよい梵鐘であることを「浮世繪新聞」によつて當局者に訴へたい。（十二月十七日）

の他と同じ巻一にて書肆をつぶき（又板ちうき）四五部も
を猶多く伝ふ。中に甲紙古状揃は、普しし寺
小屋に用ひる教科書の一ならん、こんこ伝ふ手紙を書
くことを教ふる又ふんとう字も
加へて字を教ふる具にて南北朝
目的のおれ日本の史書をも数へんとの用意もありし
ことがでる。甲紙古状揃は、今川義元武の代に
上杉謙信の古状が係雑さえそれをも
も関する大事記がおよそを収めえてある。辛酉
元亀元年の人達が当時目から記めし巻のごとく
ある。年月日もあり、発名もあるを
ハ伝托のごとき、歴史上の事実を書簡体を
複原製

記めしものにて、今の所謂古文書と擬して心得
ふるは、佛し誠に全体古状揃は何程のまことの不文
人の手を経つて書かれたものか、自分の記憶まある
のごとき決してそうでない。
あることを考へること、お寺小屋の昔のある人の手
ればこそと思ふ。寺小屋の昔のある人の手
としては当然なる（）き、無智
うが、名義の判断解さえそうろうなお道）うへ。
勿論こんとう歴史の大要
んであろうが、志かしこんが一
んであうれこことは整れがたい。
ればこそこんな伝を歴史上の
古い間違ひく行はれし

殊に士分の及人びとは（想像に絵りあるの）
状揃の服本まいろうとは本まるまがあるまでも古
解もしある為の絶分甚心にものる。例へば甲冑古牡
揃と乱れてるく、巻首に役強馬上で刀を揮つて
役玄を斬んで、役玄軍扇で受けを防めてゐ
るの図がある。此等の次川中島の細図があ
る。絵巻の戦闘数多、牡中解く雑へ、故まるとの説
かがあり、人物の服飾やまあるが、いろくの絵
があつて興味を深くものである。墓銘と本文を保ち
物語まんが歴史の本義がさまやうな生来
のものて、立派な史料書とまうもみる。振りまつ
ても等のことを思ふと、漢文の沈竹の巻の史部の歴史

かまく後まで、た価心史記漢書の
史い漢音塾に謂印せ文化時代がある。国史眼日本外史
大日本史の如きの如き武人を無つたものあつて、初学の歴
史教科書とも云い教科書ても、日本の心
記軍談ハ廣く行ん
まても云い教科書ん云が曲りまる史実を教へ
書ひまるの。古世揃い場くく士
の教育の為めと著したまるが、実い低役
思あと、北等の書に教へ珠重かれ教科書であつれも
得ぬ、殊に書誌の体で史実を数へんとまる用意
よの思れつもこで、前章に方法く要領を知らしめる
ないこんが前もの法ひあるの。今のもこれを倣ひたいと

ゐると思はせる所を見ても古状揃の著者其他に就き多少の
の研究も出来るかもしれないと思ふ。

○明治三十一年三月東京で出版された豊太閤葬式図
一帖は行列の図で彩色が施してあり、巻首に豊公の略
伝が黒田侯の題字と豊公の肖像がある。恐らく絵空
事したものを思はすことが出典が録してゐる。こんなのよ
り寝火を免かれた父祖の社であるが、あまり上で翻も
玩んで見ると多少の興味がある。豊公の葬は外征の
関係から秘されて東山阿弥陀峯に葬られ明年一周忌後
が成ってから正式に葬儀が行はれたのである。恐らく建
国以来最も盛んな葬儀であったらう。諸大名がすべて
葬列に加ってゐる、其の石高に據って供勢の数に等差
があり、蜂須賀などのやうに五十万石のもの六十万石
の大名は供勢五万人、もし石高に據らず供勢の五万人
であるのもある、黒田、浅野などは並んである。此の図
は其の大略を図したものであるが、実地の行列は
非常のものであったらう。前軍に馬、炬火行列
があり、各大名が騎馬にて供勢に擁せられて合龍の
前駆をなしてゐる。其中にも目を惹くのは、岐阜中納
言秀信と徳川内大臣家康が束帯で葉靴を穿
つて徒歩してゐる。合龍の其前には僧が歩してゐる
其中には高野山の木食興山上人がゐる。そして諸太刀は
小堀遠江守が持ってゐる。それから朱傘、青龍
白虎、日月の旗と金天蓋の行列となるが朱傘

榛原製

の旗いかの旗印 金天蓋 石田三成 化の金天蓋 悔の
左の厨が捧げもの。 えから金の御令龍が三十人
る梁かん、谷龍の上に金の天蓋が翳さんでもある、後へ
金天蓋 日と玄武の旗かが殿をす 山伍が護しまな
次る家頼か未帯姿で片桐東市正抱かんで付き随
み、その次る花大名が附き 従い海田秀家と前田利
家とか来帯薬靴で従おーでもある。足利義氏江
戸中納言秀忠 日野 の輿かの 各々霞面白衣の女房る抱もんで通る、その
後 方る上杉景勝の黒紋の代紋をを立山城守が束
帯の下靴で徒歩あて 随い、行列の まる連歌の宮花
紋色由也 醤の前 の谷六十人が従おーでもある

未だかつて到の大吹である。後陽成帝と
秀吉社神態で、諸大名をを後する美しい相と南る令龍の類の興いるものが
どうであつたか、想うことえんなどの大規模のもの空前
であつたと和歌ることかうこう。
○一時交放とも垂無きも西来武と五面の研究家
し収拾さんつてあるものの流石の年の行相也自
今も時に雑誌を筆事を掌くことある。頃老浮学な
る井上毅小の法十一年に譯し学佛國司法三職秀
吉る半俄半載本吹、教整股るを所謂る司法の三職
るもの、一に代言人二に検事を行す
る、裁判を掌る吹るの三職れを有るしせ

五、死の銀嶺

説明　吉野遊逸
　　瀧田天嶺

獨乙ゾーカル社製作無聲映畫。アーノルド・ファンク博士原案脚色。アーノルド・ファンク博士並にゲエ・ヴエー・パプスト氏監督。ゼツプ・アルガイア氏、リヒアルド・アングスト氏、ハンス・シユネエベルゲル氏撮影。

配　役

ヨハンネス・クラフト博士　グスタフ・デイースル氏
妻マリヤ・クラフト　ミツツイ・ゲツツエル孃
案内人クリスチヤン　オツトー・シュプリンク氏
ハンス・ブラント　エルンスト・ペエタアゼン氏
愛人マリヤ・マヨニ　レニ・リーフエンシュタール孃

（梗概）

ハンスと愛人マリヤは人里離れた山の小舍で結婚しました。平和な小舍に突如灰色の人影が訪れます。十年前に愛妻をピツツ・パリユウの暗い氷河に奪はれたヨハンネス・クラフト博士でした。その頃チューリツヒ大學の山岳部員が北側の絶壁を登つてゐました。そのをきいて博士は急に翌朝出發します。ハンスも是非連れてつてくれと云ふので博士はゆるします。マリヤも追つて來ました。やがてこの三人と大學生達の間に猛烈な競走が始まります。恐ろしい南風フエーンの襲來、大學生はとゝ〳〵く大雪に埋もれてしまひます。そして又ハンスは博士の命にそむいたため、この三人も谷の中空に遭難します。村人はシグナルを見て救援におもむきます。一隊は大學生の死體掘り出しに、一隊は博士救援に向ひます。けれども博士の一行はつひに彼等の目にあひませんでした。飛行機の出動、そして博士の犧牲によつて若き二人は救はれます。博士はつひに愛人の眠る雪谷に——。

標原製

原稿

士が足を挫いて運動が出来ず、ハンスが崖から落ちる
鉄郎を傷け、女性二人のお供を絶命と
する寒気の警を告くるも、村人に救援を求める。ハンスは共産党と称する
も山下の村人に救援を求めるも、拒絶される。雪の機
も自我を固守、吹雪をさせまいと村人が多く、雪の機
を以つてハンスを縛する。博士は前年あを失つたこ
とを恐れて死を決し、自から縛を解き衣類を脱し
て二人に與つて遺書を認めて雪四窟と身をかくす。他
の二人も凍へて死んだ。こんなとき飛行機
が救援の為め元気よく出発がおそ。博士の足場を得るのである
何とする能いず、救助隊も来ることなく
出来ずの始末。此の場面の素晴しき撮影を称めよ。

公れまでも村民が團結を新らくして大革新
團に炬火を各々手にもの出動の火光雪に映し
目覚しき光の業をなしたり。學生連の北海村民
の一隊に男兄さえ加わり、その兄さえ加わり
の内二人が救えなのが凍死に瀕し此時に偶士の死体
が男兄さえそうだ。映畫藝術もいろくのものを
えるなかでも絶き合いの中でもある。人間の自我と人形を
を用へる。先ず吉雪崩の假托と思はれるがこと
まで実況と喜びやる雪に武男さえ共心があるの
だ。

○湘洲詩鈔一冊三友島田孝之の遺稿。金前
年之れを贈と後先に吟者に於ては得も難

..を美然自がクンアフ・ドルノーア
..を性間人がトスプパ・W・G
たれさ成大集に全完てめ初てしそ
純山岳藝術映畫

大自然の脅威に
抗争して氷の大
巖壁を攀ずる探
險家のきれ群ろ
しエーンの南風
ー！恐ろフ

幽：大雪：大崩：暴風雪山の襲來
靈：遭難：壯快：危險：信の來
：號：救援：凄慘：再來
：死體：雪崩上：スキーのげ：襲：萬人
：大：見：！：る：氷：地

後、故人を追憶して慨歎に堪えず、春之（助）の人也、富山の県会議長たりと雖も改進党の牛耳を執る、余嘗て党事に奔走するの日未だ斯人と会するの機を得ず、頗る信ずる所なし、往後する年あり、春之の書簡皆国事に関し、慷慨悲歌の気象を紙中に溢るる書柬あり、毎回必ず二三の詩を附するを例とす、時事に関するもの多し、今此詩も亦之れ等の三四を止らず、蓋し其年肥塚龍と富山私邸を訪うの時と覚ゆ、此時田村内山と相識るを得し湘渓といふ人也、余の初めて春之を知るや、湘渓善く議会の議事を記するを以てなり、後年余が衆議院に坐席を標原製

を有する日湘渓を訪ふ、談偶ま文章の事に及ぶ、湘渓云ふ、余が曾て四五歳、敷屋沈毅名利を念とせず、大隈侯閣下に事へ、二つの日、湘渓と某県知事たらしめんとし事実を決す、余折簡祝意を致し、且速電に遅く彼れの為す所以也と、湘渓の人格見るべし、然れども彼れが矢志一生を畢りて此人格に依る、也難いかな、世教日に衰へ、湘渓逝きて数年を経、詩巻亦新し、撫此之を久ふす

二月十七日記

○国歌の力の大なるは久しきを経て益々いよいよ著る、我が海律と雖も亦然り、我が神日

横原製

てゐ絶体絶命である。茲に於て避姙を止むを得
ずとする論が出て来る。若し法律で避姙を許せば
若い男女ハ急いで結婚する必要もなく亦準備なくて
家庭を作る必要もなくなつてくる。どうせ青春血
氣の男女の性交ハ抑へ難いから、思慮ある性交を
保たしめねバ、避姙を認めるがよい。これを認めねバ
避姙ハ不道徳とならぬから、青春の男女ハ家庭を
作り得るまで之れに依つて自重することゝなる。家庭
を作り得る準備が出来て児を產めバ、悲惨のことが起
らぬ、一家の平和も保ち得るといふのが、避姙論者の主
張である。近頃亜米利加で友愛結婚(コムパニオン
マリーヂ)を主張する人がある。之れハ離婚を云ふ

判事リンゼイといふ人に主張されて居るが、其の骨
子ハ避姙にある。避姙を公認するにあらざれバ此の
友愛結婚ハ行はれない。友愛結婚ハ合意の結合
ハ離婚を許すことを條件とするのだが、試験的
に結婚するのと異つて結婚を円満に維持せんと
するのである。此の結婚の方式としてリンゼーの主
張するのハ、両性ハ結婚前医師より体質其他遺傳
病等の診斷を受くべし。避姙も危険なき方
法によるべし必ず其道の専門家に依つてなさ
るべしといふので在る。神に對して誓を立つることも
身体検査が両性の信託による以上大切であるとい
ふ主張である。亜米利加では、内実此の方式に近い

結婚が行われるのだが、これと一つの話題となれ来
がとするまでをそく数分や数回の会）中るやう
ましい欠点があり、非常渡士などの離婚訴訟で
私自しもある所からえんりんセ
イは迫害を受けもおることと自白してある。元帝今の八
開放の世の中で、男女の性的交に就ても開放論が生
る力説である。開放が極端もてると原始時代と変
ることともなるかあるも）ある事がなくもいな
い。五米利加の社会も結婚法が余り寛容である
ことが却つて多くの弊害を生ずる。法は工夫のテクリ
であるとのこと。
○リンゼーは五米利加の古い習慣の一例を左

複写製本

のごく挙げてある。
未十七世紀ごろ、北アメリカの移民ピューリタン
の人々は、寝床の中で求婚するのが風習
であつた。二人の男女は、時々寝床の一部に仕切
をつけて、一夜を共にするのだつた。今の広告同じ
これは家である求婚である。
枕を共にするのを同じ寝床の中で
の語のごとくに従つてさうしたのである。
で若し彼等が困難
が姫娘さんとの限りを彼らのとてもん婦人
物を生するとあるこれのである。

妊娠の体をもって、今日の花嫁となる女のこと。結婚式。

この風習は、「バンドリング」（日本式には箍巻）と言うことも知られる。また「タアリイング」（逗留）とか「クエスティング」（宮参）とも言う。

昔も使用されたが、当時寝台というものがなかったので、夜室上このやうにまるく巻いて避妊したものである。元は妻妾の為めに、夫が行かれない時などに、外から例へば、旅人が石を求めたとき、その妻や娘がバンドルする。

こともあるやうである。前のやうにまるく巻いて許したその人が、その特権を持つものである。

標原製

あるが、バンドリングは、決して淫奔のためとは考へられない事実である。

昔は今日より若くして結婚するのが普通であつたから、未だ十分発育しないうちに妊娠することを避けるためと思はれる。

後世の備忘記には、この風習を廃止するやうに記載してあるが、この悪習を墨守したものも多い。

この風習がいつから始まつたかは不明であるが、少くも五十年以上も行はれて来つたものと思はれる。

ある時、夫婦ふたりの不都合な行為をとがめて、自分の娘とする水蛙君との縁

台に上ることを主張しあげつれ。役等いこんつれ。
去椅子に無責任な行為を助長すると。

○此次小西通りに西巻佛小品四五點を得も架中ま
置くものき多少整理を試みたが、家都合ある佛像い
皆小品ゆえ、容れ所なしれ大きろものん、今い一つも
ねーれぬ。試みを目的をも此うを見るも三十點位
しかろう。而は摩に得当の黒佛数に関ま岡吉郎
の目的をも左と掲げる。

陳原製

一 日吉装置特別塗金佛 坐像きもり
一 鎧のかくしを納めろ厨子入三十数体ろ
一 黄銅観音坐像 光背台つき 姓名あり
一 六角佛 丈四寸
一 同 〃
一 唐代土佛 唐の年號ろり
一 西巻玉彩佛
一 西巻塗金佛 金属厨子入
一 塗金騎馬佛
一 西巻二人並坐佛
一 閻魔像 木彫精刻
一 軍神像 時代ろり

一 竹根達磨立像
一 陳真達磨 根付
一 釋尊 目貫
一 達磨
一 木彫佛 三体
一 木彫塗金佛
一 西洋塗金小品佛
一 木彫地蔵
一 千六羅漢銅印陶
一 羅漢銅印陶
一 佛面 根付
一 木彫塗金観音

一 木彫佛坐像
一 佛立像 金属ニテ出来ル 異物
一 木彫四神像 女一
一 塗金観音 小判佛像
一 厨子入小銅佛 以上佛具と佛也
一 小西鎖秋
一 小西狂机
一 小品銭鉢 五年一度
一 百萬塔
一 土塔七基
一 御室陶塔 仁清心

一鐃 四
一塗金経一巻
一貨沙三匣香合 御机摸
一もゐん塔形香爐
一塔形陶印
一香箱大 本朝寺社
一銅金剛佛像台
一蓮葉観音菩薩
一銭弘仁観寶小金 二神多金
一大佛殿造材香合
一榮の寺造材香筥
一沸覆双六賽

複原製

一豆本法華経八
一西教船内経 豆本
一百萬塔多羅尼 一巻
一元興寺天平経 大乗流転経
一小形塵経 本朝寺社摸勘自署本ハ
一法華経 宋朝板 奥書刻 長頭丸経一
一法華経 宋朝板
一金剛場多羅尼経 摸本 白鳳経
一宝経一行集帖
一豆本巻子経
一心経金刷印
一観音三十二相図 李龍眠筆図摸

一西厳住　敦煌
一貝葉住　敦煌
一羅漢圖　敦煌
一白佛上人畫觀音　聖恩
一行誡業　二字名歸
一東江源雜書善門品　刻本
一宗鏡錄　宋版零本
一天海版善門品
一元興寺緣起
一十誦比丘戒羅提木叉戒本　敦煌出土
一佛說薩陀波羅尼的驗抄　為泰書三
一華山移書壹千禄的像　一幅

一元禄版涅槃圖　刊保彩色一軸
一鎮倉圖光寺文書　寫文
一英文十牛圖頌
一信心銘十牛圖　完永版
一日蓮禁斷義四的約　德版寺
一本能寺古圖
一高雄山佛足跡圖　大版
一當麻曼陀羅緣起圖說　寛政刊
天化刊二本
一聖一國師年譜
一公慶上人年譜
一入宋三傳係
一宗教政文書一冊　野州河藪郡

一獻香三十三和圖 一册
一足利宮本種月攝取集
一高僧法顯傳
一高野山金石圖說
一盲心經 二行
一吉山名畫集
一紀州名所圖會 高野之部
一轉經攷
一禪僧系譜
一鎗倉的本寺誌
一紀花蕚画帖
一識乱剣佛像之部

陳原製

一竹多心羅漢圖 英泰硯工
一淡路梵雪證盤圖 一枚
一多ノ人考
一多大ケ多マヘ考
一變命集
一心經印譜
一珠数 三
一良寛和像

『遣米答禮使』の計畫

我が婦人代表を米國に特派す
復興の記念に對外感謝の爲め

一、目　的

大震火災當時　諸外國より寄せられた同情は、我が復興成る日、直ちに回顧され感謝の念を新たにされねばならない。茲にて本社は對外感謝の念を表明すると同時に、當時最も關係の深かつた米國に對し、特に答禮使を派遣するに決した。

二、使　節

答禮使は婦人とし、正副の兩名を選ぶ。感謝答禮の國民的情操を表現する爲には優雅なる婦人を以つて最適とするからである

三、使　命

婦人代表使命は、米國に渡り、大統領、クーリッヂ前大統領、ウッヅ前大使、赤十字社その他の團體有力新聞社並びに代表的都市等を訪問し我國民の謝意を傳ふると共に復興の實相を說明する印制物、寫眞帖その他の記念品を贈呈する

四、銓　衡

婦人使節は、(イ)我國の國際的聲望ある名士若干名より成る委員が(ロ)我が國際親善團體、婦人敎育及び社交機關等の各「推薦團體」の推擧したる婦人中より銓衡決定する

五、資　格

婦人の資格は日本の代表的女性とし、容姿、擧措、語を語り得ることを條件とす。(年齡十八歲以上)

六、訪　問

代表は正副二名とし、本社より確實なる隨員一名を附す。出發は三月中旬にして、五月末或は六月上旬に歸朝の豫定である。訪問の爲の正裝は本社にて調へ旅費全部本社にて負擔す。

昭和五年二月

時事新報社

複製禁

明治前後日歐文學の關係（上）

渡邊修二郎

遠くは三百年前ポルトガル人・オランダ人等との交通に源を發し、次に幕府の中世より其末期に亘り、明治時代に近づくに隨つて、彼我の交渉次第に濃厚となつたことは世人の知る所、そして相互言語の研究、文學の關係亦時代の進むに隨て漸く盛となり、双方ともに幾多の篤學者を出した。其人名著書の如き枚舉に暇あらず、今一々之を列舉するの煩を避け中世以後日本の文物を歐洲に紹介した學者文士の業績中未だ嘗く世に知られずして、而かも最も注目すべきもの數件を玆に記述する。

* * *

所謂南蠻交通時代を過ぎて、鎖國政策から暫く日歐の關係を疎濶ならしめた時に當つて、夙に日本の言語文書を歐洲に紹介した第一人者は蓋し後に東洋學者として名を顯したドイツ人ハインリヒ・ユリウス・クラープロート（Heinrich Julius Klaproth）である。此人（一七八三―一八三五年）は少時よりして支那の書を學び、篤く東洋諸國の言語研究に志した、日本の鎖國萬行時代に當つて其殊に日本の文學を習得するの機會を執へた次第は左の通りである。

天明二年（一七八二年）の末、伊勢の舟人大黒屋光太夫および磯吉、新藏等十餘人海難に逢ひ、北海に於てロシヤ人に救はれ、シベリヤに赴いたが、新藏はイルクツクに留まり、名をもロシヤ風にニコライ・ペトロウヰチ・コロチギン（Nikolai Petrowitsch Kolotyghin）と稱し、土地の婦人を娶つたが、暫くしてイルツク學校の日本語教師となつた（桂川甫周撰「北槎聞略」等）。當時ロシヤは有名なカタリン第二世女帝の時で、殊に東方經略に意を用ひ、シベリヤに設けた學校で漂着日本人に其語學を傳習させたのである。

一八〇五年、ロシヤはシベリヤ地方探檢員を派遣した、當時其國都の學士院に居たクラープロートは廿二歳の少年で此一行に加はつたが、イルクツクに於て新藏に出會ひ、彼から

日本語の教を受けた。最初學んだ小冊子元祿版「七ついろは」現にパリの圖書館に藏置しあり、一八〇六年日本人コロチギンについて讀了したとクラープロートの識語が附してある。クラープロートは此小冊子と同じく日本版の「早引節用集」とによつて日獨對譯辭書を起稿し、ローマ字を以て日本語を記し、之にドイツ譯を加へた。此編輯についても新藏の助力を得たことと其多少教育ある者であつたことは亦クラープロートの自記する所であるが、元來一舟夫の身分であつたから、極めて劣等の言語であつたことは容易に想像し得られる。

此「日獨辭書」は一八〇六年ドイツで刊行した、不十分ながらも、是が兩語對譯辭書の始である。其後クラープロートはパリに赴き、一八二三年に「アジヤ諸語篇」(Asia Polyglotta) を發行した。

クラープロートは又先きにイルクツクで得た一の日本書冊を佛文に譯して之に公にした、卽ち左の書である、

Tableau Ton Ran Tsi Tets. 八つ折

六頁と二百八十八頁。附圖五枚。「大英東洋翻譯資金」を以て一八三二年パリに於て刊行。

右原本は林子平（友直）の著述「**三國通覽圖說**」一冊、附圖五枚で、天明五年（一七八五年）の刊行に係る、三國とは蝦夷・朝鮮・琉球を指していふ。譯本に記する所によれば、是れも新藏の教示を受けて文意を解し得たとある。此日本人は普通の教育ある者であつたが、其助言を受けて大に得る所があつたけれども、如何にせん漢字の解釋に至つては誤を免れぬと譯本に記しある通り、一舟夫の知識を便りに譯したものであるから、誤譯の多きは無理もない。

一方原著者林子平は太平の世に此の如き海外の事を論じた書冊を公にしたことは甚だ不都合であるとて、幕府から絕版を命ぜられたものであるが、豈に圖んや、その書冊は早くも外國人の手に渡つて翻譯せられんとは、日本人は誰とて之を知らなんだ。如何にして當時日本で輸出嚴禁であつた此等の圖書を手に入れたか明かならぬが、或は松前邊でロシヤ人が得たものを譲り受けたかと想はる。それはともかくも、往時は外國と見做された所謂三國も後世遠に全く日本の所領となつたのは國勢變遷上の重要事といふべきである。

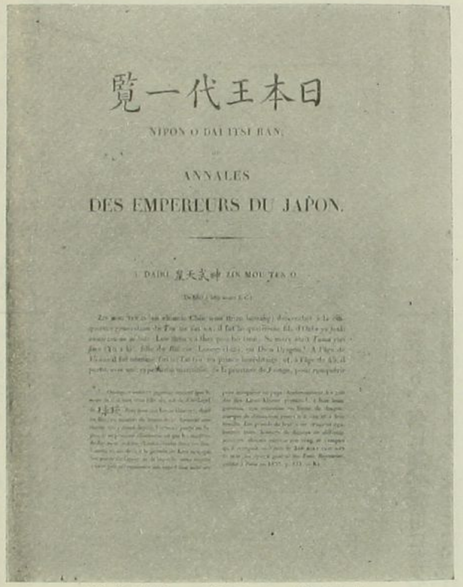
* * *

その頃再度長崎に來てオランダ商館長となつたイサーク・チチング (Isaac Titsing) は其少し前に醫士として商館に勤めたスウエーデン國植物學者チュンベリ (Thunberg) と共に學識を具へた人で、「日本將軍列傳」等の著編あり、其佛文譯の遺稿「王代一覽」はクラープロートの手で校定し、之に自己の筆に成る「日本神話」一篇を卷首に加補し、左の題號で公にした。

Nipon O Dai Itsi Ran, ou Annales des Empereurs du Japon.

二つ折三十六頁と四百六十頁。「大英東洋翻譯資金」を以て一八三四年パリ及びロンドンに於て刊行。

此原本「**日本王代一覽**」七冊（寛文三年、一六六三年刊）は德川幕府の儒職林恕（鵞峰又春齋）の編輯する所、佛譯本には原本に隨つて所々歷代天皇、地名、官名等に漢字を挿入してある、蓋しチチングは長崎通辭の蘭語口譯によつて佛文に復譯したものであらう。其一八〇七年アムステルダムから福知山藩主朽木昌綱に贈つた書簡に「王代一覽」に記する古代諸帝の歲壽過長についての疑を述べてあり、之を卷首に附載してゐる。


日本王代一覽
NIPON O DAI ITSI RAN.
ANNALES
DES EMPEREURS DU JAPON.
1. DAIRI 皇天哀神 JIN MOU TEN O

佛譯「日本王代一覽」初頁

此譯本に挿入しある漢字を檢するに、原本の文字を模刻したものと認め得れども中には字體の稍々崩れたものも見ゆ。

以上譯本三書は孰れもクラープロートがパリ學院でアジヤ諸國語の教授であつた時、卽ち一八一六乃至三六年の間に發行したものであるが、以上の外、言語・旅行等に關する數多の著編を刊行して愈よ東洋學者として名を顯すに至つた。

クラープロート物故して數十年の後にフランスにロニー (Rosny) バーゼース (Pages) の如き日本研究の篤志者を出したのは、クラープロートの東洋殊に日本關係の著書に刺

載せられたことがないとは云へぬ。

* * *

クラープロートの次にはオーストリヤの人オーグスト・ピツツマイヤー（August Pfitzmaier）を擧げねばならぬ、此人は同國ウキンの帝國科學學院歷史部敎授で、千八百四十年乃至八十年代に亘つて東洋の語學・文學・歷史等に關する三十餘種の著譯と論文を公にした、其中最も奇とすべきは左の日本小說である、

Sechs Wandschirme in Gestalten der Vergänglichen Welt. ウキン一八四七年帝國印刷局刊行。（縱七寸八分橫四寸八分）。

此原本

浮世形六枚屛風　柳亭種彥作、歌川豐國畫。文政四年版、上下二冊全三十枚（縱六寸、橫四寸）。

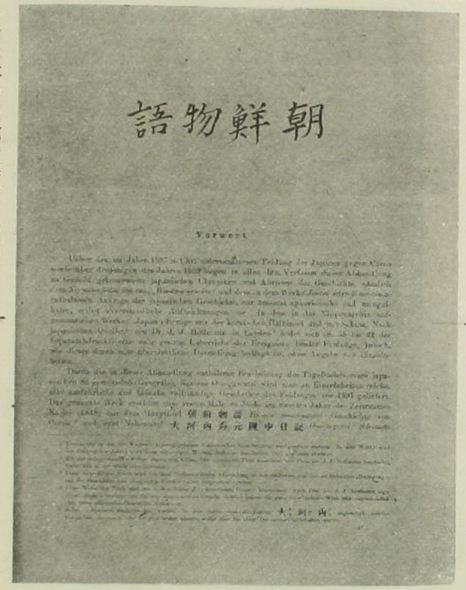
ウキン發行の日本原本模版は每葉の原畫その儘に造つて、表紙に各彩色を加へ、本文の總革かな文は新に製造した連續木活字を用ゐ、挿畫は石版刷として務めて原版に違はぬやうに意を用ひてあり。譯者の誇言する如く、此ウキン版本こそ世界最初の日本繪本原形の模造版である。

英譯「浮世形六扇屛」表紙

ドイツ譯本も亦二編に分ち、全部四十頁、各葉二つに折り、讀者への注意として表紙の下端に「紙頁を切り離すに及ばず」と記しあり。

譯本序文に於て獨力を以て日本文を解するに甚だ困難であつたことや、歐文通例の數も性も人稱も時制も句點も備はらず、主客の用語明ならず總べてのべた書きで、文章の首尾混雜した所あり、爲に譯述校訂に苦心を重ね、時日を費したことを縷縷述べてゐる。是れは實に有理の言分である。然し表題の、「六枚屛風」を Sechs Wandschirme と譯したのは、恐くは六箇の屛風と解したのではないか、原意の通り六つ折りの屛風であれば宜しく Sechs-blätter Wandschirm と譯すべきではないか、日本の六つ折り屛風を見たことのない西洋人の事であるから、是れくらゐは恕すべきである。又譯序に於て原本を「モンセー十八年江戸木版」と解して記したのは文政四年の誤記であることは、其直下に「一八二一」と西洋紀年を註してあるにても明かである。

此書の發行は一八四七年といへば、實に我が弘化四年に當り、海軍司令ペリがアメリカ艦隊を率ゐて江戸近海に來り、鎖國政策を破らせた六年前に當れば察するに其原本は長崎に來たオランダ人などの手から得たものであらう。そして這般むづかしい日本の小說を譯すに至つては其苦心想ふべく、其熱心驚くに足ると云はねばならぬ。獨力翻譯の困難は安永年間杉田玄白等が始てオランダ醫書「解體新書」を譯した時にも過ぐべく、單に好事家の道樂として輕



獨譯「朝鮮物語」初頁

輕看過すべきではない。譯文全部を檢すれば前に指摘した以外にも、固より穩當を缺く所少からざれども、其誤譯の如き之を明治前後及び其以來の歐文和譯に比すれば、深く咎むるに足らぬのである。

此書原本は柳亭種彥（本名高屋彥四郎、幕府の小士）の傑作といはる、「田舍源氏」の著作よりも幾年前の作で、其趣工、筆致未だ綵熟に至らず、所謂草双紙卽ち低級小說に過ぎざるに、譯者が之を採つたのは、偶然手に入れて東西風俗の相違を奇とし、或は只表題によつて一の社會事相を述べたものと直解したものではないか。

此原本英譯では、慶應三年初版、明治二年再刷に係る「**浮世形六扇屛**」と題するものあり、和文・英譯各一冊（美濃紙半截大）和文は卷首に柳亭種彥・松園主人と連記す。

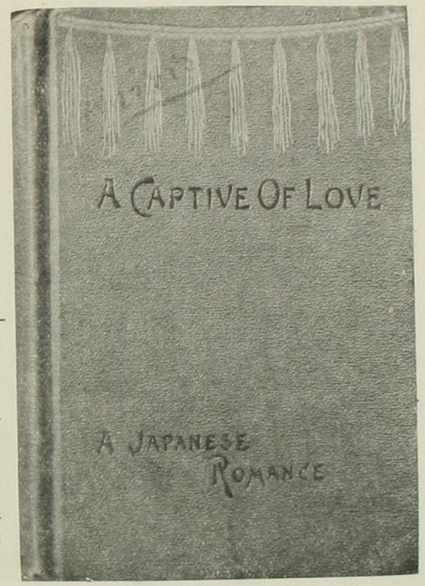
和文の方は種彦の總平かな文の語辭を其儘漢字交りに改め英文の方は題號を Account of a Japanese Romance と改め、表題紙に松園藏と記す。此英譯文は歐人の手に成り、ビッツマイヤーのドイツ文譯から重譯したものと推察すれども、其何人なるかを詳にせず、歐文各「日本書籍誌」等にも亦記してない。

右發行者松園といふは安政の頃朽木昌綱編「西洋錢譜」を拔萃して刊行し、又「海防彙議」を編述した鹽田順庵（泰、號松園）であらう、此人は幕府の末の學醫である。

＊　＊　＊

前述の外又ビッツマイヤーのドイツ文譯に係る左の書冊がある、

Der Feldzug der Japaner gegen Corea im Jahre 1597.



英譯「雪妙間兩夜月」表紙

ウキン一八七五—六年（明治八—九年）版。二つ折、全百十六頁。

原本

朝鮮物語　三冊。大河内秀元撰。

慶長二年陣中日記　嘉永二年版。

ドイツ譯本は譯文の外ローマ字を以て日本原文のドイツ式音譯を附記す、原・譯双方ともに原文中の人名地名・其他の語に漢字を挿入し、間まカタカナの傍訓をも加ふ。カタカナは原本より模刻し、漢字は豫て支那から取寄せた活版を用ゐたものと認められる。此翻譯にも非常に苦心した跡が見えるが、此頃はドイツ人アレクサンダー・シーボルト（有名なフヰリップ・フランツ・シーボルトの子）がベルリン日本公使館の書記官として其地に居たので、日本文質問等の便宜を得たことと想はる。

此譯篇はもとウキンの「帝國科學學院學報」中に載せ、其後別に單行本とした。又ビッツマイヤーの譯篇で同學報に載せたものの中左の二種がある、

雲妙間雨夜月（くものたえまのあまよのつき）　曲亭馬琴作。文政四年原版、全五冊。
譯本　一八七六—七年ウキン版。

扶桑拾葉集　德川光圀撰。寫本三十五冊。（明治版あり）
譯本　一八八二年ウキン版。

此他「明月清談（めいげつせいだん）」（一八七六年譯版）及びアイヌの語に關するもの三篇あり、其一は上原熊次郎原撰「もしほ草」に據るといふ、但し余（現筆者）はまだ「明月清談」の日本原本を見たことがない。以上は前記「學報」に載する所孰れもドイツ文譯の外にローマ字音譯を附記してある。

此「學報」は今稀本となつて全部を得ること甚だ難く、余は曾てドイツ滯留中、ドレスデンとベルリンの兩圖書館に於て之を一覽したが、其他に完本を藏する所少なく、名高いモリソン蒐集アジヤ關係諸書（現今東洋文庫珍藏）中にも見えず、今余の僅に所藏するものは其中の二三編だけに過ぎぬ。

前揭曲亭馬琴（贈從四位瀧澤清右衞門）の「雲妙間雨夜月」は其後米國文士エドワード・グリーイ（Edward Greey）の英譯あり、A Captive of Love と題し、原本の挿畫廿六を模刻して之に加へ、一八八六年（明治十九年）ボストンで發行した。其序文によると、原本の通りに直譯したものでなく、意譯であると、そして時のニュー・ヨーク領事高橋（新吉）の校定を經て脫稿し、其版本を日本の兩陛下に贈進したとある。

又序文中に此書は好評を得たから、ドイツ譯、フランス譯の出づるも近きにあらんと記しあれば想ふに此譯者は其十年前既に、ビッツマイヤーのドイツ譯のあつたのを知らぬやうである。該書のフランス譯は余の知る限り、遂に發行にならなんだが、後にドイツ譯はヴアーナー（Werner）の手に成りIn Liebesbanden と題して一八八七年ストットガートで出版になつた。此の翻譯は全然グリーイの英譯によつたことは疑ひない。斯く「雲妙間雨夜月」は獨・英二語の譯刊を見たれどもその日本原本は格別の傑作とも云ひ難く、例の馬琴一流の佛敎思想を加味した小品に過ぎず、而して其翻譯も幾分好奇心に驅られ只日本の小說の一標本として、原本を讀み得ぬ外人に紹介せんが爲めにしたものであらう。（未完）

＊　＊　＊

○露岡のレニン殺後どうなるかということは、往々人の話の種となるが、これを実際に物語ってくれる。往海面にこんなスの主義の実現に行われず、今日の露国には、ブルジョアの共産党が、ただ一人の共産党員をも許さず、今なお二千万の党員を支配しつつある。実に二千万の党員が七千万の共産党員を統治するのである。名の共産党員が、ブルジョアインテリが悪路しつつある元首らしい名をもってみるのである。実際は中央委員会の秘書長という役目で、実の元首である。

ある。即ち、スターリンが死んだ。北人の好意をもって、栄光ある生涯、格別の感言を受けるものの大がかりなものである。鉄拳政治を用いて秘書役としてスターリンの眼をつけたのである。ただ北の人である。レニンが北人いかが、各地の人を配置する時、主権の存在することである。レニン没後ハクーメフやレメチフが半年を取った。彼レニンは何もこの考えある所が、あったのだから、カーメネ

フ等心共の遺言に皆いてスターリンを秘書長として
共に安固と立つ此の実のスターリンを軽く考へ
北からであつた。北男を何ものかもやらう
とする気がつかうろう。カーメネフやジノヴィエフの如きもあの北の
リの言論戦に打ち勝ちスターリンは思うままに自家の地
盤を築くをぬめうる。地方委員会の中心を配置した
急ぎ自家の勢力を築き四年目に一回開く全ロシア大会があつて、重要の中
央委員や秘書役を投票するのであるから、大

ターリンの味方が全ロシアスターリンに対抗が出来るのである。共産党
党の高める刑務の人が
狀い秘書役の手元
一スターリンに利する
党を呼び、尚庭帳を示して威嚇
するの手段を取
することが出来る。
日今日の元首如き地位を得ないであろう。スターリンはゆ新しく
偉い事があるまい。とこかい
党会も大切な安部の中央委
共産主義と進行する為めさえ

武る力数名の権力を
いるがあるが、こんが探偵と殺人を
殺人罪で、これが数
らう方面の配置
殺すを捕くも殺す
の制度政治の
ある、ある
の衛に命
のやうなもの
るこの七時間
探偵も、命令通り
以い、若し

堂々たる多数者が、多くの富を掠奪するものを
国家の価値を妨害するとして、之を犯罪とし
て罰する、此の罪を犯すものの追放されるマイナス
五年ヨリ七年ヨリ所の都市に立入ることを許さざるといふで
ある。勿論高官の汚職を抑制する為めの主義の
のみであるけれども、こんへレニンの時既に之を廃止した
のも働くことのできる仕事のところで第一
税を取ることもできるし、又から来る仕事のところで第二
として、国民から仕事のところで。こんが
完かる奴隷労働で、国民は一言もの

標原製

ない者は生活を維持し得ない者の状
態に陥てゐるのである。之の様な者の状
を救くるかと云ふに、何
で、プルジョアを敵とするの
級の子弟を学校させるのか。共産主義とは
ない者は生活を維持し得ない者の状態に陥てゐるのである。之の様な者の状
を救くるかと云ふに、何で、プルジョアを敵とするの級の子弟を学校させるのか。共産主義とは
外富人の物を盗んで貧人の子
もあるといふ。それは誤りである。外国の場合
銭をやる事である。各国交通も
あるが、実に無意味である。
大使が河豚の大使館の如
き、実に無意味である。各国の私人

政治小說

「外務大臣」に就いて

柳田泉

一

坪内先生のお書きになつた小説のうちに、『外務大臣』といふ政治小説があるといふことは、内田魯庵氏から伺つてゐたので、餘程前から名だけは知つてゐた。一度讀みたいものだとは思つてゐたが、何しろ本になつてゐるものではなく、新聞に出たまゝのものなので、何うしても手に入らず、そのまゝになつてゐた。ところが、吉野作造先生の好意で、さるところに此の小説の掲載されてゐる新聞の綴込みがあることがわかり、それを借覽した上、人を頼んで寫して貰ふことになつて大に喜んでゐる最中、今度は別の方面から新聞そのもの、切抜きが手に入つた。重ね重ねの大喜び、何とも言葉でつくせない。依つて、『外務大臣』といふ小説が何んなものか、それを一つ紹介して、同好の士の一粲に供したい。

二

此の小説の掲載されたのは讀賣新聞で、明治二十一年四月五日から六月二十九日出てゐる、二十九回といつても、一回が二回乃至三回四回もあるのがあるから普通の分量で約七十回位に當るかも知れない。

始め新聞綴込みで讀んだときには、緒書きを讀み洩した上、署名などろくろく注意もせずに卒讀したのでうつかりしてゐたが、いよいよ切抜を手にとつて見ると、作者署名のところに共酔居士飜案となつてゐる。坪内先生が共酔居士と號したなどといふことは、私は寡聞にして知らなかつたので、これをみて、果して此の小説が坪内先生のものだか何うだかと一寸迷つた。そこで改造版の『坪内逍遙集』の年譜を開けて見ると、二十一年の條に確かにある、——

「讀賣新聞」のために『外務大臣』を起稿せしが、二ケ月餘にて中絶す。

これで共酔居士が坪内先生だといふ一點だけは片付いたが、もう一つ飜案といふ點で又迷つた、これは魯庵氏からも坪内先生の創作だと聞いてゐたし、右の年譜にも起稿云々とあつて明らかに創作らしく受けとれるのに、現物の

複原製

方にはわざわざ飜案とあり、左のやうな緒書きさへ添つてゐるからであつた。

右は佛國の傳奇家バータル氏が曾て畢世の腕を揮つて演劇にしくみ大喝采を博せし有名なる脚本なりとぞ近きころ英國の文人ヲチットレー氏が之を小說にひき直し「時好」といへる英國の雜誌に揭げたるが是また好評を得たりといふ居士いぬる日神田邊をぶらつきフト該雜誌の端本を得たるに恰も好し件の小說載せてありもとより端本の事なれば全豹を窺ふこと能はざれど之を要するにテント面白し我國の事にひき直し傍訓新聞などに載せんにはかならず申るべしと思ふうち粗忽なる家人之を古新聞とまちがへ屑屋へやつてしまひたり殘念なれど詮方なし此たびさる方のお好みとやらにて日就社より頼みを受け記憶の儘を飜案すれど大かたは原書に戻れるならん加ふるに生れてこのかた此たびをかはきりの小說三昧お讀み苦しきは嘸かしと承知の上で書く押の強弓はるの日だけにお目長にみそなはさばあれ「外務大臣」は當時讀賣の客員として義務上いや〳〵ながら書きしもの、隨つて創作と名乘るが辛く、戲作たるを暗示すべく飜案を吹聽した歟と記憶いたし候

英佛文人や共醉居士について、——

バータルは多分「場當り」の意なるべくヲチットレーは「落を取れ」なるべくや共醉居士とは何の意なりしや憶ひ出だせず或は獨醒の反對、「世人と共に醉ふ」即ち「時好に追隨す」といふ意味にてはなかりし歟

これで萬事が明白である。私の質問はいかにも血のめぐりの悪い質問であつたわけで、その點は眞にお恥かしいわけだが、然し血のめぐりのよしあしに係らず、分からぬことは同つて置くに限る。今こゝで私のやうな血のめぐりの悪い人間がるなからうものなら先生百年の後更に何だかんだと『佳人之奇遇』みたいなウルサイ問題が起るまいものでもない。

以上の諸點はこれで片づいたとして此の小說について、今一つ確かめて置きたいことがある。それは、此の小說が既に創作だとすれば、外務大臣とは誰をさすのか、全然空想か、幾分でも事實があるのか。飜案ならば止むを得ないが、當時の問題を取り扱つた政治小說であるといふ以上は、此の點に興味の中心が懸かつてゐる。これについても先生はかう答へて下すつた。——

何分年を經候故筋立もよくは記憶せざれど故大隈老侯を多少當込んで空想八分の作意なりしやにぞんじ候但しどういふ事實的背景もモデルもなく其日々々の出鱈目云々

出鱈目云々は先生の謙辭であるが、然し出鱈目にせよ坪内先生が大隈老侯（當時伯爵）を主人公にして政治小說を書いたといふだけでも、實に讀書慾をそゝられる。此の小說は木村毅君も是非よみたいといつてゐたものだが、追つけ此の一文をよんで、私の手に實物があると知つたら、アメリカ廻りをやめて一月も二月も早く歸つてくるかも知れない、或はガイムダイジンオクレの電報が來るかも知れない。

三

此の小說に出る人物で重立つたのは左の通りである。

猿渡　敏基（橋場伯）
東條　重躬（伯爵大臣）
新島　大（伯爵大臣）
一ケ瀬忠固（伯爵大臣）
小室野一郎（書記官）
稻村　三利（秘書官）
才東機四郎（教授）
織部　喬澄（新聞記者）
長後　久男（學士）
壯士數人
山の井ひで子（女教師）
小室野しげ子（同上）
長後みな子（久男妹）
東條しやう子（伯令嬢）

坪内先生のお言葉にある通り、誰は誰をモデルにして書いたなどといふことはなからうが、然し大隈さんを當込んだところがあると御自分で仰言つて居られる以上、大體の目標がないわけではない。大隈伯（當時）の入閣して外務大臣になつたのは明治二十一年二月のことであり、當時讀賣新聞と密接な關係があつた坪内先生のことゆゑ、自ら見聞された事實もあつたらうと思ふ。從つてそれが、此の小說を執筆される際に自然に流露して背景ともなり、性格ともなり、趣向ともなつてゐないとは限らない。さう考へると、此の小說を讀んで、誰が誰だといふやうな見當

のついた方が附かないよりはぐつと興味をそゝる。だから、當時大隈伯入閣までの政情といつたやうなものを一應會得して讀まれると、此の小説の面白さは一層かと思ふ。

四

此の小説は、條約改正の問題にからんで政海が沸騰し、大隈伯の出馬するまでの政情を骨子に、先生のいはゆる「空想八分」で描き出したものである。

外會内卑、歐化主義、條約改正のための方便から時の外務大臣新島伯（井上馨）のとつた政策が、輿論の反對をかひ、壯士連の過激運動となり、伯の辭職となり、引いては内閣も危くなるので、總理大臣東條伯（伊藤博文）は漸く孤立の不利をさとり、秘書官稻村の策を入れ、政界一方の重鎭たる一ヶ瀬伯（黒田清隆）と提携しやうとする。

稻村はそのため、一ヶ瀬伯の腹心たる才東機四郎に東條伯の令嬢を嫁させることをすゝめる。東條伯もこれを承諾する。才東は別に經綸の才があるので一ヶ瀬伯と猿渡伯（大隈重信）を握手させて、縦横に一ヶ瀬伯に國政を料理させてみたいといふ心がある。一つは東條伯の眞意を見抜いてるるのの結婚をことはる。さうして同じ東條伯の秘書小室野一郎と提携して稻村の奸謀をくじかうとする。小室野は姉が東條伯と特殊關係があるので（後に稻村と特殊關係がある）、伯の信用もあり、第一東條伯の娘とは戀仲であるので、稻村に結婚の邪魔されたことをひどく心外に思つてるる。それで喜んで才東と同盟する。此の稻村と才東、小室野、三人を中心に政局は推移して行く。これが此の小説の政治的結構の荒筋である。此の荒筋から派生して舞臺を賑やかにしてるる小さなプロットは樣々ある。稻村と小室野、山の井二女學士の交渉、口には純な男女交際を唱へて裏で醜交を樂む當時の女學生社會それから、才東とその友人長後兄妹との關係、殊に妹のみな子の才東に對するあどけない戀、兄久男の深刻な嫉妬と邪推、又は新聞記者織部と長後との結合、壯士の運動、大臣暗殺未遂などが、歐化主義の世相と雲行のあはたゞしい政界を背景にして二重に三重に織りまぜられてるる。

かうして此の小説は、猿渡伯が大臣になるところまで行かずに中絶してるて、後半は筋書きだけで物語られてるる。それによると、後半は、——

小室野姉弟が稻村の政略を挫かんとて才東と皆子の縁邊を取持つ事、久男が嫉妬と偏執に因つて此縁邊を拒むより人しらぬ皆子の心の苦み、織部の不義、稻村の陰謀、長後が其犧牲となつて一方に於ては財産を失ひ一方に於ては良友を失はんとする事、稻村が壯士を煽動して小室野一郎を辱めんとする事、皆子の義、意中の人を棄て兄の病惱を除かんとする事小室野繁子稻村にあざむかれて再び弟の敵となる事、才東が稻村の密計を洞察して小室野一郎と心をあはせ一ヶ瀬と東條伯とを說き終に三伯爵をして内會議を開かしむるに至り猿渡伯外務大臣となるに終るといふ。此の小説の中絶については、坪内先生はかう言はれてるる、——

よくはおぼえねど中絶せしは必ずしも惡評の故にてはなく寧ろ自分で我慢出來なくなりて歎願して引退つたものであつたやうにぞんじ候　云々

それにつけても知りたいのは、小室野姉弟、山の井夫人、才東、長後兄妹、稻村、織部などが、たとひそつくりそのまゝのモデルから描いたのでないことはよくわかつてるても、およそ誰々に似てるるかといふことが分つたならば小説文化の上に一段の興が湧かうと思ふ。最後に本文の見本を少し揭げて稿を終ることにする、——

紳士の物語る筋に因て紳士の身の素性を考ふるに此は某縣の有志總代なり當時何物の刺戟に因て歐政治世界大に動搖し或は海關稅則の事に關し或は現政府の政策に關して陸續獻白書を提出する事殆ど流行物の如くなりて物情何となく穩かならず加ふるに内閣の大臣中に議論の相稱ざる所ありて卒然男退せし人などもありて朝野を問はず苟くも政事に志を抱ける者は相あへば其談かならず政事に涉り是非と得失とを知るも得らぬもかしましく其是非と得失とを評しあへり其樣熱病患者の讒語をいふが如し就中地方に於ては此熱病頗る蔓延の勢ひを逞しうし最初は此の病にかゝりし者專ら青年輩のみなりしが後には「三コロリ」に生存りし婆鑁たる人にも傳染して何者の似而非神巫が言ひ觸せし歐獻白書を出さぬ地方は政事に不熱心を極めたる者なり有志總代を送らぬ縣地は憂世愛國の思想なしといふ事地方

一般の流行言葉となり彼の病熱の傳染する所終に獻白書を草せざるはなく有志總代を任選して自腹を其旅費に切ざるなし又中央の首府に於ては所謂壯士といふ憂世の豪傑八方に蜚出し或は其牙營を山の手の牛乳屋の奥に構へ赤字の旗飜翻と朝風にひるがへらせ或は下町の下宿屋の樓上に籠りて内閣攻擊の文を草し間接に黨勢を張らんとするなど猶佛國の革命時代に彼の有名なるブリッソウが四階樓上に身を潛まして政府の進退を指顧せしが如し只彼は一人にて「ジロンヂスト」黨に左右し此は數百人にて何事も爲出さず徒らに肩臂を張せしのみ

此時に當りて民望ありしは第一に橋場の伯爵にて其次に位ゐせしは島國伯（板垣か）其次は高縄伯（後藤）其次は懸冠大臣某の子爵（谷干城）なりさるが中に高縄伯は其ころ首府近く住ひたれば屢々憂國の至誠を漏すに慷慨（但し着實）なる演說を以てし大に世の人に景仰されたり（下略）

——第四回（在野の伯爵）のつゞき

○西園寺公年壯佛國の感心を受け、自から筆まめ（東洋自由新聞）紙上に屢〻自由主義を唱道し、家庭を顧みず、時の宮内卿たる公の名徳大寺公をも困惑せしむるの事ありしを以て、勅命を以て社せしめんとの御内意ありしも、當時の東洋自由新聞記者石井研堂が、「西園寺公社勅命を拒む」の報道を掲げたるの内勅を拒むの意なり。

東洋自由新聞と内勅

東洋自由新聞第十九號に、社長西園寺公望の、退社に關する事件を載せ、報知新聞次て其理由を詳報した、事は宮内卿より、左の書面を渡され、西園寺社長は、是非なく諾請せられた事件である。

先般、東洋自由新聞發行に付、貴下其社長を擔任せらるゝ趣、右は主上思召しを以て退社可爲致、　御内勅之あり、乃ち自ら實則御内達に及び候也

明治十四年四月　宮内卿德大寺實則

正三位西園寺公望殿

勅命で新聞社長をよさせたのは空前で又絶後であらう。當時、自由主義の嫌忌された程度は、今日の想像の及ばぬものであつた。

東原製

○東京第一の大學校開校の式

場は大隈英麿侯爵邸、時は今十七日午前十時、來賓は文部大臣森有禮氏を始め、各省の官員、各府縣の知事、各學校の教員、其他新聞記者など、總數凡そ三百餘名、定刻に至るや、式部官の案内にて、先づ大臣の席に着き、次に來賓の席に着き、次に教員の席に着き、次に新聞記者の席に着きたり。

明治十五年十月廿一日、東京專門學校の開校式を行ふ。貴顯外客改進黨員を始め、一同午後一時參集し、講堂には陸軍々樂隊の奏樂あり、同三十分に式を始め、校長大隈英麿氏起て左の祝辭を朗讀した。これ、今日の、大早稻田大學の呱々の聲である。

天下更始、新主義の學方に起る。都鄙の子弟爭つて之を講じ、早く之を實際に應用せんと欲するに、速成の教校甚だ今日に切なるが如し。而て深く其蘊奥を極め詳かに其細故を盡さんと欲せば、勢また原書の自讀の力に依ざるを得ず。是れ本校正科の速成を期し、竝に英語學科を設ける所以にして、其意、之を以て目下の需要に供し、以て我國に學問を獨立せしむるの地歩を爲さんと欲するに在り。今や此開校式を行ふ。故に聊其目的を述べ以て諸君に告ぐ。　校長大隈英麿

これについて、成島柳北の祝文、小野梓の演説にて式終る。それより已に

○的流の初年一学生の為の下宿業を営むものが近年生じ、後の学術に日新の気象をやうやうそなへんとする。左り乍ら心あつと見くる。左り乍ら、もるものが、それは学の為所

許可
寄留所　神田橋外美土代町二丁目

寄留代價　一晝夜一人ニ付

上　樓	六錢	三食代
	二錢五厘	席代疊二枚敷分シキ分ヲ
	二錢	夜食代蚊帳除ク
	一錢	炭油代
	通計拾壹錢五厘	
下　樓	五錢五厘	三食代
	二錢五厘	席代疊二枚敷分シキ分ヲ
	二錢	夜食代蚊帳除ク
	一錢	炭油代
	通計拾壹錢	

來ル十五日ヨリ開行尤モ代價ノ儀ハ物價ノ高低ニヨリテ一定ナシカタシト雖モ當分表ノ通リ定メ置キ候事

○報　條

方今開化進歩ノ日ニ當リ全國ノ人誰カ廟堂ノ公議ヲ奉戴シ自家ノ私業ヲ勉勵スルノ念ナカランヤ故ニ目前西東ノ諸有志陸續東京ニ輻輳シ外國ノ學ヲ勵ム者アリ内國ノ產ヲ繁ク者アリ市街ノ榮ト學校ノ盛ト各其業ニ於テ自由ヲ缺ク事ナシ然レトモ獨リ四方輻輳ノ地ナレハ食ト住トノ事ニ就テ其自由ヲ缺ク事鮮尠ナラス夫人事ノ最モ切要ナル　ト住トノ事ニ於テ其自由ヲ缺ク事アレバ必ス勉勵ノ念志ヲ損スルニ至ル勉勵ノ念志ヲ損スルニ至レバ必ス全國開化ノ障碍アラン故ニ今般神田橋外美土代町ニ於テ新ニ一宇ヲ築造シ弘ク寄留ノ諸君ヲ迎ヘ食ト住トノ自由ヲ拼シ夜ニ晝ニ各其業ヲ勉勵シ月ニ年ニ全國開化ノ愈進歩アランコヲ企望スト云

明治六年癸酉六月　　林範平識

これは今日いふ簡易合宿所乃至は民衆ホテルの先驅ともいふべきものか。當時の米の相場は、一圓に付き二斗一二升より三升までゝ、翌七月になつては多少高くなつたといふ話であるが、煙草エヤーシップ一個の代で三食付樓上の宿泊が出來た時代があつた一資料である。（齋藤生）

＊　＊　＊

複製禁

と云ふ小冊子の名前の意味は、「報條」の二字を取つてあるも、海内新聞の名稱を取つたものである。而して其の體裁は、時と云ふ、隨分堂々の名前の割に、内容は極めて簡略なもので、一寸新聞紙の様な一枚摺りの小冊子である。

○今次の總選擧　本年の普通選擧である。其の結果の民間の重に、栄冠を擔ぐ政友會の壓勝と伝へられ、即ち定員三百七十三名の内、政友會百七十四、投票の多い民政黨二十餘票、政友會に勝つてゐるも、民政の脚光を浴びた犬養木堂翁も七千餘票を得て僅かに當選したに過ぎない。政友會の勝利は、其の實、政友會の勝利と云ふよりも、其の實、其の巨額が普選ーと

大分の本田休治の山本こうが当選である。既に政
党の得票が多かつたのに、今次の選挙は両回の較
べものにならぬ激戦の数が増し、輸送への庶次一流が多く
投票し中立の態度のものが棄権(棄権)投票大衆運動とでも
名づくべき現象を呈し、無産大衆運動の気運少かつたのは、候補
者の乱立を統制し得なかつたのと、候補の乱立を統制し得
なかつた為めに将来を通じ見込みの立たぬ為めである。
既に当選者の数の前回よりも多い。而して民政両党の
数の前回よりも多い。而して民政両党の議席を減
らしたのから、従つて無産政党の議席を増したのから、従つて
も、日本のごとく復古的関係も投票する習慣の強

い所でいい、当選(当選)するかは性質上無理なことである。
いうまでもあるが、今次の候補者を破棄
復古一般強りの回答を破棄することが出来る。今後の投票のごとく
言うことが出来る。今後の投票の実収を挙げ、元
締のごとくいい、気とれない年月もあつたが、軍資金の乏しい候補
資収を元締りけんか、軍資金の乏しい候補
のもあるが、当選(当選)と得票数とは不動のものである。
表こと次第、今後の知つてある三回の政友会は永い習慣
のを廃止に廃し、民政両党が絶対に禁酒(禁酒)さるべき
ものである、比較的

公平なる民政の内閣の他の敵党が倒壊を行ふ
姿を於ては乱るる能はざる
ものであることが
する。

貴族院議員選挙は九人候補を立て九人共に
当選した、大隈内閣の革命の後始末もある。何分従来の慣例
を破棄するものがあるので困つたことであつた。
もつとも純粋者とうたい、中正会が其の
基本を固めた。
リ投票を当選させた。
各二投票を託した。

ので、知事は小選挙区に命じて投票
無効と消滅したものを取り
立てたとか風説が。伝説では山本が義ちゃんの後援
長い間伝説の種を蒔いた
と看を取つて、特に新
老人の為、山本の得意の
選一人のといふ伝説を
〇西洋の古美術を
以来行はれることのみ
美術をつくり、模倣することと
用へとることを
まつすぐ日本設立
する。

二月二十四日

両氏北欧を西洋
いろいろの言葉も流布

しれぬ。随分譯語に窮して独おかしな言葉を用ひ
たこともある、亦新に名を命ずるに奇妙な言葉
を用ひたこともある。今はソサイテーを社会と云ひ、バ
ンクを銀行と云ってゐるが、維新前後には此の二語
も考へられ。ソサヤチーの譯語には仲間、国人び、世話或
は仲間など、云はれたこともある。食用品のチーズを
白牛酪といはれし、石油を石脳油と云はれた時代
もある。マッチを燐寸と譯しれたものへ当てた
みるが、リンスンと唱へれたのではなく、唱へす苦んで
摺火口と云はれたこともある。兎角燧の聯想を離
れ兼ねて、マッチ製造の社を新燧社と云はれた。
端艇競漕即ちボート・レースの初めて大学に

自転車のゴム輪の破れたのをパンクと云ふのを轉りて婦人の字あることヌ云前しけり

催された時ますへ、達艇といふ語を用ひた。船に花魁
といふがあつたし、乗るといふ香から名をつけたので
あらう。酒をおいらんと云ふが一時行はれた。目
下の大学にある所は常に此酒を飲んだ。平り又の生
の間すへ娼妓をプロといはれた。プロはプロステテエートを約
したのである。北里をノルスと云ひ品川をサウス
と云はれた。高利をアイスと云はれたのは氷と音
が通ひから起つた。不見轉(ミズテン)といふ言葉は
今も行はれてゐる、同じ意味でフランネル一振らず様
といふ言葉もある。これは廣く行はれてゐるへの。休
日をドンタクといはれたことがある。岩谷一六又吞淨山
人の戯號のあるのは一六の日が休日であつたので、

それから今は我邦も
式の社会に、チャンピと
父をチャンという名から
ペケ、サラン、パンという名が
用いられる。ペケは悪い
ある名言葉で
八飲料が関する社
ンくどやというがあ
散というようなことがある
酒がある。溶浪人を
もある。
近頃洋服を共使

複原製

官費から思い附いも
名から来たのである。料理屋
交る
ひサラン。パンは打捨
名言葉と
名が多く
グレ残飯をウゲと今
用いること行い出し
譯

した色)切を支し、茶酒其他の方が呼ぶ
がよくなるように先ず世の進歩
する午砲が廃せられ、電氣仕掛
する、のである。サイレンである。
いとまのない刑務所と改名
車が輪軽しも危険、とある所から、交通整理
の警官が生まれる。婦人の職業が多く出来
やる派出婦があり、モデルがあり、タイピストがあり、女子ケンが
あり、エレベーターガールがあり、ウエートレス(女給)がある。女事務員があり、エレウエー
トルがあるる。女優やダンサーの強へとことい
ふまでもないろくの名が命もえ

大建築をビルデングと名称を用いるを約しそのビルデングとそろえてみる。異説有力なれども、デパートメント・ストアと云う名称を用いる。アパートメントハウスの略である。デパートメントストアとは呉服屋が追々と衰えてアパートメントハウスが初めて理解されることが漸やく行われ、クラブが初めて理解されると共に、デパートメントストアと云う名称が追々と衰えてアパートメントハウスの略である。デパートメントストアと云う名称が追々と衰えてアパートメントハウスが初めて理解されると共に、デパートメントストアと云う名称が追々と衰えてアパートメントハウスの略である。

且つ消滅かあるいは未だ、大震災後、チエーンシステムの店舗が多く出来た。飲食店ハ震災後多く簡易食堂という名が多く用いられたが、バーやカフエー、ハウスの類しい。サヴラメーシ（急激しい）ことが著しい。サヴラメーシ（急激）の用語が行われ出したのハすべて早いことでこんな等の事が実地に行われ

標準製

れてみる。無産者[illegible]社会学ルジユアとプロレタリヤの二語が[illegible]てみる。[illegible]戦（スポーツ）の方面でハ野球（ベースボール）、テニス、ラグビー（ラグビー）、水泳、競漕、競走等八氣[illegible]ハこれに集まり、相撲を[illegible]：対抗しも映画[illegible]が流行し大仏縞の振袖が出来、大ろうそくで[illegible]所が出来、全社ハうそうとの名[illegible]ろうそく、逆にトーキーまで[illegible]戦の陰亜吉ハ外国ひ[illegible]面例用いえてみる。ラジオは各[illegible]関とろうそ報道[illegible]とろうて来た。野球の勝敗

用紙の主合えが抜きつくまして目暗のごとく
説的でるまの「開けれ。銀座ハ大震災後の
盛り場となりて、モガ」や「モボ」が横行する、また
を銀ぶらと云ふのハ紳士散策の意味で、夜
られ時ごろまでぞめくべ紳士の真の味が知れぬと
云えである。婦人が美かこ洋装することが流行し、スカートの下からあ脚をつき出して
美を競えでいる。山来可より脚部の格好がよく
なる来ないと大のへうバッグやハンドバック手提げ
代りのパラソルに雪洋婦人と競えでいるが、
なるべく身丈が短かくこれ丈へ競争が生まれる
い。数多き化粧品や薬品も洋名を次つて呼ばれ

標原製

ねるこよが十の八日九を占めでいるが一の二本仕事
なるべく多く銀ひであるの次の初年まへ元行機も
なるべく電車もなるべく。オートバイもなるべく
即刷の輪転機も無つた、ラヂヒヤ、オフセットも
無つた、それと今とを較べると世の中の時相ハ甚し
く変つたと謂ハざるを得ません。

二月廿五日記

〇毎年一回金の延長二月十七日を以つて今まで
記とし以来春城会ハ都会まで廿五日を以つて
那判記庵跡と事こに昼夜一回を催した。場所ハ
選ぐ比べの初日の初午大祭の繁昌ハ言ふの迄もなく
雷名と美名をもつてあらゆる化の機械出来
賑かな会なあつた。会ハ自合日の名を以つて今名

（世話人これを選定し、市島先生の御了認を得たるもの）

（イロハ順）

牛込區東五軒町三五	市嶋	先生
牛込區矢來町四ノ一八	伊藤	莊之助
四谷區内藤町一ノ五六號（四谷三三一一）	石塚	三郎
牛込區矢來町五十後昆會内	富田	到
牛込區早稻田大學圖書館内	大石	理圓
小石川區大塚仲町四十一イの十六	大江	乙亥門
四谷區傳馬町新一丁目	奥田	雲藏
市外澁谷町神山一八	賀田	直治
市外澁谷町松濤五六	河竹	繁俊
牛込區矢來町四	吉田	春太郎
新潟市東堀通一番町	吉田	和男

標準製

牛込區弁天町一五七　種村宗八
大阪市福島天王寺町　柴安浙九郎
牛込區原町三ノ三　村山駒之助
牛込區市ヶ谷富久町八四（四谷三四六一）　山田清作
新潟市水道通一　山田寂城
新潟市仲通　松木弘
新潟市學校町　松井郷治
牛込區矢來町五十　昆田強平
同　昆田謙一
牛込區矢來町三十一　小久江成一
雜司ヶ谷四八一　小林堅三
市外中野町新町三七三五　寺陽元直
麹町區土手三番町八（九段二八四二）　坂上弘藏
池袋一六〇一　坂口默

長岡市東神田町　廣井大江賀田寺
牛込區早稻田町三四　森脇美樹
長岡市北越新報社　關太郎

ばを後にしてとの御厚意が出て
跡をいろく語り出でゝ四十年前の
ことが思い出されて感慨無量
ある人と記臆がなく
ばかし各人の淚の自分の
て大いなる時を移した。今
ぢん人もあれど、去の自分
一生涯解けぬ究から春風
加

名工玉楮象谷

原風庵主人

○

蒔繪螺漆は金屬彫刻と俟ち、我工藝品中、最も精彩に富めるもので、印籠、料紙、硯箱、鐔、小柄、縁頭等々々。それらは歐米各國人の歎稱措かざるところである。彫金の方は兎に角、漆藝に於ては本阿彌光悦、尾形光琳、土田宗悦、小川笠翁等の如き人々は言はずもがな、最近世に於ては鹽見政誠山田常嘉齋、野村楊平、古滿寛哉、原羊遊齋、柴田是眞、中山胡氏、小川松氏等の如き、精緻に、壯麗に、洒脫に、その作風に於ては異るところあるものゝ、いづれも名工としての聞え高く、その作品は世人の珍重して已まぬところである。然るに近來、斯る漆藝が稍衰微の境に陷つたことは、生活様式の變革、隨つてそれより來る用度器具類の變化の如きも與つて力あることであらうが、これは一には人材の缺乏にも亦因ることであつて、遺憾至極のことゝ言はなければならない斯る時に當つて、斯藝の名工玉楮象谷の如きを追想し、その人と作品とを偲ぶのも、亦決して故なきことではなからうとおもふ。

○

玉楮象谷は讃岐高松の人、文化三年の十月四日、同城下の外濱屋町に生れた。名を爲三、字を子成、通稱を敬造と言ひ號を象谷、一に藏黑にも作つた。父の藤川理左衞門洪隆は周南と號し、鞘塗師であつたが文雅の道に厚く篆刻を能くした象谷は幼少の頃より父に就き、漆技及び彫刻を學んだが、豐かな賦禀は長ずるに及び出籃の譽れ高く、その妙技は世人の歎稱措かざるところであつた。斯る結果は天保初年の頃、藩主松平賴恕の知るところとなり、召し出されて抱へられ、種々の製作を仰せつかつたが、その技いづれも神に入り、驚異に價ひするものあつたから、侯は御感斜ならず、玉楮なる苗字を與へて帶刀を許された。以來、賴胤、賴總と三代に仕へて寵愛を受け、作品の數は三百餘に達したといふが、當代に於ては殆んど異數に屬すること、言はなければならない、斯る彼れは日本古來よりのそれに支那の漆技の長所を攝取し、一種獨特の螺漆法を發明するに至つた。世人呼んで象谷塗または讃岐塗と言つたが、それは竹籃または木材を質とし、それへ青、黃、黑、朱等の漆を塗り、極めて緻密に花卉鳥禽蟲魚の類ひを彫り、更にそれへ各色の漆を塗つた、頗る異色精彩に富めるものである。その後、彼れは白漆、紫漆等を發明せんと苦心努力を重ねしたが、遺憾にもこれは遂に成らずにしまつた。

○

それにしても、彼れの藝術であるが、彼れは漆技としては殆んど往くとして可ならざるはなかつた。けれども殊に得意としたのは、彫刻を能くしたゞけあつて推黑の類ひであつたそして緻密なものに至つては實に驚くばかり、天保十年の頃に、藩主の爲めに製作した一個の角印籠があるが、それへ荷葉五十五、花三十、太湖石二、龜三百四十三、蟹四百三十三、鮭四十一、蝸牛二十七、蜻蛉二十四、蠅九、蜂四、蝶二十六、玉蟲二、蚱蜢四、基四、蟋蟀二、蟷螂四、蜘蛛十八、螻二、蜈蚣五、兜蟹一、雀十九、鶯七、翡翠十、鵜鴒一、鷺三、合せて千八十六個のものを彫刻し、その細緻なことに至つては殆んど肉眼を以ては窺ひ得ざる程で、そしてそれがいづれも蠢々乎として生動して居る慨あるといふに於ては、驚かざるを得ず、洵に近世の名工と言はなければならない。なほその作品は、自筆の『勉心簿子』と題する記錄に載つて居るといふことである。——斯うした彼れは、寡慾活淡で父同様文雅の道に厚く、常に文人墨客と交遊したが、殊に京都の僧雲華貫名海屋、永樂保全、浪花の篠崎小竹、讃岐の宮本敬哉、阿部絹洲等とは友として善く、隨つて書畫共に巧みであつた。殊に畫は南宗文人の風を會得し、その高邁な人格と豐かな詩藻とを反映したもので、清韻高雅の頗る見るべきものがあつた。明治二年の二月一日六十四歲で歿したが、墓石は高松西濱村の西方寺に在る。讀者にして、若し海南の地にでも旅することあらば、往きて墓石の苔を掃ひ、佛華の一と莖を捧げることを忘れてはなるまい。

春城先生清鑒

蟠桃社中

康午二月念七　畊石篆人要刻

余昨年七十の時に梅溪日年春城七十之所作」の
を作る、昨年常と之れを同
ることを得ず、耕石と嘱して
しめたるの此印也
○日露戦後十五周年の陸軍紀念日に白木屋
で会場として兵器の大陳列を為す、余も初日
に到り見る、未だ全部陳列に畢らざりし時
なりき大砲等周囲を往来し、日露の役を追想
行状のいまだ戦場を周囲へ見えざりし時なりき世
界の大戦を経て兵器の改まりゆくさまの頗る
多し此の時列中一両外客の物を得ることの多
く迂遠なれども是を変くることなきの多のたぐひ幸

タリスル爆弾デアマス

住
保温上適當ナル構造チシタル寒地用天幕ノ内ニ輕便ナル暖爐ヲ焚イテ幕營ス

化出張員ヲ派遣スル事ハ
ヲ以テ解決ノ時ハ
ヲ收メ得ル
ロ近代合理化」前者ハ
ヲ、無用ヲ省キ節約ノ大切ナル事ハ
アルケレドモ、困難ヲ克服シテ
トロデハ答ヘ行ハレ難シ。實ハ日本ヲ
ヲツケル多数ノ
人デアルコトヲ忘レ、
メヲ同シ役目ノ
形ヤ大キサガ違ツテ
メ、ソレヲ統一
ノデアル。アメリカノ

◇軍刀ノ歴史

創始ハ外國デ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豊臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス

明治維新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル樣ニナリマシタ

明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

兵器本廠出品

◇百五十糎輕胴型探照燈

此ノ探照燈ノ光力ハ十億燭光デアリマシテ夜間敵航空機ノ來襲ニ際シ之ヲ八粁ノ遠方ヨリ照明シテ高射砲ノ射撃ヲ容易ナラシメ或ハ我防禦飛行機ト協力スルモノデ將來ノ戰闘ニハ對空防禦ノタメ必要缺クベカラザルモノデアリマス

運搬時ハ自動車ニ積載シ停止セバ其ノ機關ニ依リ直ニ電流ヲ發生セシメ照明スルコトガ出來マス

◇裝甲自動車

最近出來タ裝甲自動車デアリマス

◇大喇叭型空中聽音機

敵飛行機來襲ノ場合高射砲ト協力シテ都市等ノ對空防禦ニ使用セラルヽモノデアリマス

晝夜共此ノ機械デ敵航空機ノ來襲ヲ遠クカラ知ルコトガ出來マス

聽音距離　夜　約十キロ（二里半）
　　晝　約十キロ（二里半）

◇十四年式糎野戰高射砲

移動又ハ固定トシテ使ヒ得ル飛行機射撃用ノ大砲デ一萬米（約二里半）程ノ上空ヲ射撃スルコトガ出來マス

距離　高　一里半
　　水平　二里

◇投下爆彈

飛行機及飛行船等カラ投下シテ人馬ノ殺傷ヤ陣地ノ破壞其他家屋ヲ火災セシメタリスル爆彈デアマス

◇搬水器

揚水車デ揚水シタ水ヲ自動車又ハ現地ノ適宜ノ運搬具ニ搭載シテ軍隊ニ補給スル爲ニ用フル搬水器デアリマス。水ヲ入レナイ時ハ運搬ニ便利ナ樣ニ縮少シマス。其ノ能力ハ一ケノ搬水器六石デアリマス

◇野戰炊事車

本炊事車ヲ歩兵大隊ニ二輛ヲ配屬スルトキハ軍隊ニ續行シ行進中ニ所屬大隊ニ要スル一食分ノ炊事ヲ終リ宿營地到着ト同時ニ分配シ爾後二時間ニテ朝晝食ノ炊事ヲナシ分配出來ル樣ニ考案セルモノデアリマス

◇野戰鑿井機

此ノ機械ハ現地ニ井戸ヤ河川等ノ水ヲ得ラレナイ時ニ迅速ニ鑿井シテ地下水ヲ得ル爲ニ用ヒラレル鑿井機デアリマシテ尋常土デ十二時間ニ約五十米ヲ堀ルコトガ出來マス。最近支那事變ノ際大イニ活動致シマシタ

◇野戰パン燒裝置

米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ『パン』ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアツテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス

其ノ能力ハ一臺ニテ一日歩兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇固形燃料

露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊鑿用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコールト石鹸等ヲ固形ニナシ携帶ニ便ニシタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテ居リマス

被服廠出品

◇寒地作戰ノ場合ニ於ケル軍隊陣營生活

寒地ニ於ケル軍隊ノ生活ニ就テ次ノ事項ヲ示ス

衣　防寒ノ爲メ毛皮製等ノ防寒被服ヲ著裝シ尙殊ニ寒冷ヲ感ズル上空勤務者用トシテハ電熱應用航空被服等ヲ用フ

食　温食湯茶等供給ノ爲メ野戰炊事車、沸水車、等ヲ用ヒ現地ノ小麥粉ヲ利用スル爲メパン燒竈ヲ裝置ス尙不毛地作戰ノ爲メ野戰鑿井機ニ依リ清水ヲ得上空勤務者ノ爲メニハ航空糧食ヲ用ユ

住　保温上適當ナル構造ヲシタル寒地用天幕ノ内ニ輕便ナル暖爐ヲ焚イテ幕營ス

昭和五年三月一日(土曜)より三月十二日(水曜)まで

陸軍省後援

陸軍大展覽會

—出品部隊並ニ出品概要—

航空本部出品

◇甲式四型戰鬪機
一時間ノ速度二百二十粁(五十五里)ト云フ隼ノ様ナ速サト敏捷サデ敵ノ飛行機ヲ追ヒカケ之ヲ撃落シ制空權ヲ吾ガ手ニ收メ戰勝ノ基ヲ作ル飛行機

◇サ式二三〇馬力航空發動機

型式	固定星型水冷式	氣筒數	九
氣筒中型	一二五粍	衝程	一七〇粍
公稱馬力	二三〇馬力	最大馬力(地上)	二七〇馬力
正規回轉數(毎分)	一五五〇回	最大回轉數(毎分)	一六五〇回
總重量(水及油ヲ除ク)	二二七瓩		

造兵廠出品

◇塡藥裝彈機
此ノ機械ハ電管付ノ「ケース」ニ火藥ヲ秤リ込ミ且ツ彈丸ヲ嵌メルモノデアリマシテ何カ一ツ足リナイモノガアルト機械ガ自然ニ止ッタリ藥莢ヲ跳ネ出シタリシマス。結局彈丸、火藥、「ケース」ノ三ツガ完全ニ揃ハナケレバ圓滑ニ動カナイ様ニナッテ居リマス

◇小銃及銃劍ノ製作工程
規定ノ材質ヲ用ヒテ金質部ハ火造カラ機械調質、研磨、仕上等ノ各作業ヲ經、木質部ハ荒木取、機械作業、手作業、磨キ、塗漆等ヲ經テ組立ラレマス部品數ハ小銃七六箇、銃劍一九箇デアリマス
分業數ハ小銃約一、六〇〇、銃劍一四〇デアリマス

◇十一年式輕機關銃(バノラマ)
發射速度毎分五百發デ點射(一ケ所ヲネラッテ射ッコト)、薙射(次々トネラッテ射ッコト)共ニ自由デアリマス
全長ハ一米一〇〇デ重量ハ十瓩デアリマス
一ツノ部品ガ出來ルニモドレダケノ檢査ノ關門ヲ通ラネバナラヌノカ
輕機關銃ニ付テ見マスト裝塡架彈丸ヲ送ル部分ノ一部品デモ百七十九ケ所ノ檢査ヲナシ銃全部ダト約千九百箇所ノ檢査ヲナシマス
檢査ノ精度ハ規定ノ寸法ヨリ百分ノ一粍位ノ大小シカ許サレヌ所モアリマス

◇彈丸ニ就テ
榴霰彈ハ主トシテ人馬ヲ殺傷スルタメニ使用シマス。此ノ彈丸ヲ使用スルニハ裝彈前彈丸ガ所望ノ位置ニ到達シタ時ニ爆發スル様ニ信管ノ目盛ヲ合セテ置クノデアリマス。彈丸ガ發射サレテ砲口ヲ離レ所望ノ位置ニ來タ時ニ信管ノ火ハ彈丸ノ中心管内ノ火藥ヲ傳ッテ底部ノ火藥ニ燃エ移リ非常ノ勢ヒヲ以テ爆發シ數多ノ彈子ハ彈丸ノ口カラ發射サレ個々ノ彈丸トナッテ人馬ニ殺傷ヲ與ヘルノデアリマス。即チ一度大砲カラ發射サレタ彈丸ハ或位置ニ於テ再ビ小サイ大砲トシテノ役目ヲナスノデアリマス
榴彈ハ地區地物ノ破壞ヲ主目的トスルノデアリマシテ此ノ彈丸ハ多クノ場合或目標ニ命中シタ瞬間ニ信管中ニ發火シ其ノ火ガ傳火藥筒中ノ火藥ヲ傳ッテ炸藥室内ノ火藥ニ燃エ移リ榴霰彈ヨリモズット〳〵強イ勢ヒヲ以テ爆發シ目標ヲ破壞スルノデアリマス

◇彈丸重量檢查機
彈丸ノ重量ニ差ガアルトキハ命中精度ヲ惡クシマスカラ此ノ機械デ自動的ニ恰時適當ナ重量ノモノヲ選ミ出ス様ニシテ居マス

◇日本刀ノ歷史
創始ハ我國デ今カラ千二百三十年前人皇第四十二代文武天皇ノ御代即チ大寶元年八月大寶令ガ發布サレマシテ刀工ハ其ノ作品ニ自分ノ銘ヲ切ル事及其ノ製作年月ヲ鏨ル事ヲ制定セラレマシタ。此ノ時代ノ名刀工ニ天國ト云フ人ガ居リマス。其後色々ト變遷シテ來マシタガ現在ハ之ヲ時代別ニ區別シマシテ次ノ様ニ申シマス

古刀(自大寶—至文祿)	八百九十年間
新刀(自慶長—至天明)	百八十年間
新々刀(自寬政—至昭和)	百四十年間

◇軍刀ノ歷史
創始ハ外國デ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豐臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス
明治組新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル様ニナリマシタ
明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

兵器本廠出品

◇百五十糎輕胴型探照燈
此ノ探照燈ノ光力ハ十億燭光デアリマシテ夜間敵航空機ノ來襲ニ際シ之ヲ八粁ノ遠方ヨリ照明シテ高射砲ノ射撃ヲ容易ナラシメ或ハ我防禦飛行機ト協力スルモノデ將來ノ戰鬪ニハ對空防禦ノタメ必要缺クベカラザルモノデアリマス
運搬時ハ自動車ニ積載シ停止セバ其ノ機關ニ依リ直ニ電流ヲ發生セシメ照明スルコトガ出來マス

◇裝甲自動車
最近出來々裝甲自動車デアリマス

◇大喇叭型空中聽音機
敵飛行機來襲ノ場合高射砲ト協力シテ都市等ノ對空防禦ニ使用セラルヽモノデアリマス
晝夜共此ノ機械デ敵航空機ノ來襲ヲ遠クカラ知ルコトガ出來マス

聽音距離	夜	約十キロ(二里半)
	晝	約十キロ(二里半)

◇裝甲自動車
最近出來々裝甲自動車デアリマス

◇大喇叭型空中聽音機
敵飛行機來襲ノ場合高射砲ト協力シテ都市等ノ對空防禦ニ使用セラルヽモノデアリマス
晝夜共此ノ機械デ敵航空機ノ來襲ヲ遠クカラ知ルコトガ出來マス

聽音距離	夜	約十キロ(二里半)
	晝	約十キロ(二里半)

◇固形燃料
露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊餐用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコール石鹼等ヲ固形ニナシ携帶ニ便シタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテ居リマス

◇野戰パン燒裝置
米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ『パン』ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアッテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス
其ノ能力ハ一臺ニテ一日歩兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇野戰炊事車
本炊事車ヲ歩兵大隊ニ二輛ヲ配屬スルトキハ軍隊ニ續行シ行進中ニ所屬大隊ニ要スル一食分ノ炊事ヲ終リ宿營地ニ到着ト同時ニ分配シ爾後二時間ニテ朝晝食ノ炊事ヲナシ分配出來ル様ニ考案セルモノデアリマス

◇野戰鑿井機
此ノ機械ハ現地ニ井戸ヤ河川等ノ水ヲ得ラレナイ時ニ迅速ニ鑿井シテ地下水ヲ得ル爲ニ用ヒラレル鑿井機デアリマシテ尋常土デ十二時間ニ約五十米ヲ掘ルコトガ出來マス。最近支那事變ノ際大イニ活動致シマシタ

◇野戰炊事車
本炊事車ヲ歩兵大隊ニ二輛ヲ配屬スルトキハ軍隊ニ續行シ行進中ニ所屬大隊ニ要スル一食分ノ炊事ヲ終リ宿營地ニ到着ト同時ニ分配シ爾後二時間ニテ朝晝食ノ炊事ヲナシ分配出來ル様ニ考案セルモノデアリマス

◇野戰鑿井機
此ノ機械ハ現地ニ井戸ヤ河川等ノ水ヲ得ラレナイ時ニ迅速ニ鑿井シテ地下水ヲ得ル爲ニ用ヒラレル鑿井機デアリマシテ尋常土デ十二時間ニ約五十米ヲ掘ルコトガ出來マス。最近支那事變ノ際大イニ活動致シマシタ

◇野戰パン燒裝置
米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ『パン』ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアッテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス
其ノ能力ハ一臺ニテ一日歩兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇固形燃料
露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊餐用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコール石鹼等ヲ固形ニナシ携帶ニ便シタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテ居リマス

◇軍刀ノ歷史
創始ハ外國デ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豐臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス
明治組新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル様ニナリマシタ
明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

◇軍刀ノ歷史
創始ハ外國デ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豐臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス
明治組新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル様ニナリマシタ
明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

古刀(自大寶—至文祿)	八百九十年間
新刀(自慶長—至天明)	百八十年間
新々刀(自寬政—至昭和)	百四十年間

◇軍刀ノ歷史
創始ハ外國デ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豐臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス
明治組新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル様ニナリマシタ
明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

◇軍刀ノ歷史
創始ハ外國デ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豐臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス
明治組新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル様ニナリマシタ
明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

兵器本廠出品

◇百五十糎輕胴型探照燈
此ノ探照燈ノ光力ハ十億燭光デアリマシテ夜間敵航空機ノ來襲ニ際シ之ヲ八粁ノ遠方ヨリ照明シテ高射砲ノ射撃ヲ容易ナラシメ或ハ我防禦飛行機ト協力スルモノデ將來ノ戰鬪ニハ對空防禦ノタメ必要缺クベカラザルモノデアリマス
運搬時ハ自動車ニ積載シ停止セバ其ノ機關ニ依リ直ニ電流ヲ發生セシメ照明スルコトガ出來マス

◇裝甲自動車
最近出來々裝甲自動車デアリマス

◇大喇叭型空中聽音機
敵飛行機來襲ノ場合高射砲ト協力シテ都市等ノ對空防禦ニ使用セラルヽモノデアリマス
晝夜共此ノ機械デ敵航空機ノ來襲ヲ遠クカラ知ルコトガ出來マス

聽音距離	夜	約十キロ(二里半)
	晝	約十キロ(二里半)

◇固形燃料
露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊餐用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコール石鹼等ヲ固形ニナシ携帶ニ便シタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテ居リマス

◇野戰パン燒裝置
米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ『パン』ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアッテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス
其ノ能力ハ一臺ニテ一日歩兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇野戰炊事車
本炊事車ヲ歩兵大隊ニ二輛ヲ配屬スルトキハ軍隊ニ續行シ行進中ニ所屬大隊ニ要スル一食分ノ炊事ヲ終リ宿營地ニ到着ト同時ニ分配シ爾後二時間ニテ朝晝食ノ炊事ヲナシ分配出來ル様ニ考案セルモノデアリマス

◇野戰鑿井機
此ノ機械ハ現地ニ井戸ヤ河川等ノ水ヲ得ラレナイ時ニ迅速ニ鑿井シテ地下水ヲ得ル爲ニ用ヒラレル鑿井機デアリマシテ尋常土デ十二時間ニ約五十米ヲ掘ルコトガ出來マス。最近支那事變ノ際大イニ活動致シマシタ

◇野戰パン燒裝置
米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ『パン』ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアッテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス
其ノ能力ハ一臺ニテ一日歩兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇固形燃料
露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊餐用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコール石鹼等ヲ固形ニナシ携帶ニ便シタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテ居リマス

被服廠出品

二、分解式鳩舍
鳩車ノ通ラヌトコロデ使フ鳩舍
分解シテ馬二頭ニ分載スル　四〇羽入　重量約百九十瓩
三、戰場ニ於ケル鳩通信
鳩通信ノ特ニ便利ナトコロハ地圖ヤ寫眞ヲ送ルノニアル、一分間ニ一粁ノ速サデ飛ブ
鳩通信ハ他ノ通信ガ杜絕シタトキニ最モソノ效果ヲ發揮スル
四、鳩魂塔
平戰兩時ニ活躍シタ傳書鳩ノ英靈ヲ永久ニ懷メル爲全國有志ノ淨財デ出來タモノ中野ノ軍用鳩訓査委員事務所内ニアル

陸軍自動車學校出品

◇木炭自動車
此ノ自動車ハ揮發油ノ代用トシテ木炭ヲ使用スルモノデアリマス。即チ木炭瓦斯發生器カラ生ズル可然性瓦斯(主トシテ一酸化炭素)ヲ空氣ト混合シテ氣筒内デ燃焼セシメテ動力ヲ得ルモノデアリマス
燃料消費量ハ揮發油一立方ト木炭一瓩ト同等デアリマス
燃料豐ハ木炭ヲ使用スレバ揮發油ノ約半額デ足リルコトニナリマス

◇乘用六輪車
此ノ自動車ハ普通自動車ノ通レナイ様ナ惡イ土地モ自由ニ走レマス且ツ荷量ヲ六輪ニ分配シマスカラ普通道路上ヲ運行スル場合デモ道路ヲ損傷スルコトガ少ナイノデス

◇裝輪裝式小型戰車
此ノ戰車ハ道路上デハ車輪デ走リマスガ道路ノ惡イ所、道ノナイ所、急坂路等デハ裝軌式デ走ルコトガ出來マス

歩兵學校出品

◇軍用犬
彈丸雨飛ノ中デ命令ヤ通知ヲ少シノ間違ヒモナク一里位ノ距離ヲ配達スル頭ノ眞サニハ驚ク外アリマセン果シテ斯クモ勇氣デ頭ノ眞イ人ガ居ルデセウカ

糧秣廠出品

◇ズック製洗米器
之ハ野外デ炊事スル場合ニ用フル爲メニ作ッタモノデ不使用ノ時ハ折タヽンデ携行出來ル様作ッテアリマス

◇運搬嚢
之ハ野外ニ於テ事スル場合ニ用ヒル汁桶デアリマス、不使用時ニハ折リタヽミテ携帶シ得ル様ニ作ッテアリマス

◇アセチリン炊事燈

◇航空用食糧
片手ヲ以テ食ベラレル様ニ考案シタモノデ航空者戰車等ノ塔乘者用ノ食糧デアリマス

◇航空用水筒(魔法瓶)
飛行機飛行船等ノ塔乘者ハ兩手ヲ使用シテ水等ヲ呑ム事ガ困難ナ場合ガ多イノデ口ヲ以テ吸ヘバ出デ止メレバ自然ニ密閉サレルモノデアリマス

◇沸水車
出征地ニ於ケル飲料水ハ傳染病等ノ爲メ煮沸シ用フルコトガ必要デアリマス。此ガ爲行軍途中デモ煮沸出來ル様ナッテ居リマス

◇携帶口糧
戰時出征シタ場合各兵ガ常時携帶スル豫備食糧品デアッテ戰地ニ於テ他ニ給養ノ方法ガナクテ已ムヲ得ナイ場合ニ之ヲ使用スルモノデアリマス
袋ヲテ容積ヲ小サクシテ出來ル丈輕ク補給ガ容易ク食用ト携帶ニ便利ナ様ニ出來テ居ルノデアリマス

◇搬水器
揚水車デ揚水シタ水ヲ自動車又ハ現地ノ適宜ノ運搬具ニ塔載シテ軍隊ニ補給スル爲ニ用フル搬水器デアリマス。水ヲ入レナイ時ハ運搬ニ便利ナ様ニ縮少シマス。其ノ能力ハ一ケノ搬水器六石デアリマス

◇野戰炊事車
本炊事車ヲ歩兵大隊ニ二輛ヲ配屬スルトキハ軍隊ニ續行シ行進中ニ所屬大隊ニ要スル一食分ノ炊事ヲ終リ宿營地ニ到着ト同時ニ分配シ爾後二時間ニテ朝晝食ノ炊事ヲナシ分配出來ル様ニ考案セルモノデアリマス

◇野戰鑿井機
此ノ機械ハ現地ニ井戸ヤ河川等ノ水ヲ得ラレナイ時ニ迅速ニ鑿井シテ地下水ヲ得ル爲ニ用ヒラレル鑿井機デアリマシテ尋常土デ十二時間ニ約五十米ヲ掘ルコトガ出來マス。最近支那事變ノ際大イニ活動致シマシタ

◇野戰パン燒裝置
米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ『パン』ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアッテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス
其ノ能力ハ一臺ニテ一日歩兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇固形燃料
露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊餐用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコール石鹼等ヲ固形ニナシ携帶ニ便シタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテ居リマス

被服廠出品

公稱馬力　二三〇馬力　最大馬力（地上）二七〇馬力
正規回轉數（毎分）一五五〇回　最大回轉數（毎分）一六五〇回
總重量（水及油ヲ除ク）二二七瓩

造兵廠出品

◇填藥裝彈機
此ノ機械ハ雷管付ノ「ケース」ニ火藥ヲ秤リ込ミ且ツ彈丸ヲ嵌メルモノデアリマシテ何カ一ツ足リナイモノガアルト機械ガ自然ニ止ツタリ藥莢ヲ跳ネ出シタリシマス。結局彈丸、火藥、「ケース」ノ三ツガ完全ニ揃ハナケレバ圓滑ニ動カナイ樣ニナツテ居リマス

◇小銃及銃劍ノ製作工程
規定ノ材質ヲ用ヒテ金質部ハ火造カラ機械調質、研磨、仕上等ノ各作業ヲ經、木質部ハ荒木取、機械作業、手作業、磨キ、塗漆等ヲ經テ組立テラレマス部品數ハ小銃七六箇、銃劍一九箇デアリマス
分業數ハ小銃約一、六〇〇、銃劍一四〇デアリマス

◇十一年式輕機關銃（バノラマ）
發射速度毎分五百發デ點射（一ケ所ヲネラツテ射ツコト）、薙射（次々トネラツテ射ツコト）共ニ自由デアリマス
全長ハ一米一〇〇デ重量ハ十瓩デアリマス
一ツノ部品ガ出來ルニモドレダケノ檢査ノ關門ヲ通ラネバナラヌノカ
輕機關銃ニ付テ見マスト裝塡架彈丸ヲ送ル部分ノ一部品デモ百七十九ケ所ノ檢査ヲナシ銃全部デ約千九百箇所ノ檢査ヲナシマス
檢査ノ精度ハ規定ノ寸法ヨリ百分ノ一耗位ノ大小シカ許サレヌ所モアリマス

◇彈丸ニ就テ
榴霰彈ハ主トシテ人馬ヲ殺傷スルタメニ使用シマス。此ノ彈丸ヲ使用スルニハ裝彈前彈丸ガ所望ノ位置ニ到達シタ時ニ爆發スル樣ニ信管ノ目盛ヲ合セテ置クノデアリマス。彈丸ガ發射サレテ砲口ヲ離レ所望ノ位置ニ來タ時ニ信管ノ火ハ彈丸ノ中心管内ノ火藥ヲ傳ツテ底部ノ火藥ニ燃エ移リ非常ノ勢ヒヲ以テ爆發シ數多ノ彈子ハ彈丸ノ口カラ發射サレ個々ノ彈丸トナツテ人馬ニ殺傷ヲ與ヘルノデアリマス。即チ一度大砲カラ發射サレタ彈丸ハ或位置ニ於テ再ビ小サイ大砲トシテノ役目ヲナスノデアリマス
榴彈ハ地區地物ノ破壞ヲ主目的トスルノデアリマシテ此ノ彈丸ハ多クノ場合或目標ニ命中シタ瞬間ニ信管中ニ發火シ其ノ火ガ傳火藥筒中ノ火藥ヲ傳ツテ炸藥室内ノ火藥ニ燃エ移リ榴霰彈ヨリモ一ツト〳〵強イ勢ヒヲ以テ爆發シ目標ヲ破壞スルノデアリマス

◇彈丸重量檢查機
彈丸ノ重量ニ差ガアルトキハ命中精度ヲ惡クシマスカラ此ノ機械デ自動的ニ恰時適當ナ重量ノモノヲ選ミ出ス樣ニシテ居マス

◇日本刀ノ歷史
創始ハ我國デ今カラ千二百三十年前人皇第四十二代文武天皇ノ御代即チ大寶元年八月大寶令ガ發布サレマシテ刀工ハ其ノ作品ニ自分ノ銘ヲ切ル事及其ノ製作年月ヲ鏤ル事ヲ制定セラレマシタ。此ノ時代ノ名刀工ニ天國ト云フ人ガ居リマス。其後色々ト變遷シテ來マシタガ現在ハ之ヲ時代別ニ區別シマシテ次ノ樣ニ申シマス

古刀（自大寶―至文祿）	八百九十年間	
新々刀（自慶長―至天明）	百八十年間	
刀（自寬政―至昭和）	百四十年間	

◇軍刀ノ歷史
創始ハ外國ヲ有リマシテ本邦傳來ハ今日ヨリ五百年前豊臣秀吉ニ印度副王カラ贈ラレタ事、又其後印度總督カラ有馬侯及大友侯ニ贈ラレタト云フ記事ガ御座イマス
明治維新後愈々軍刀ノ必要ヲ感ジ獨逸ノ「ゾーリンゲン」會社製ヲ購入シマシテ始メテ兵器トシテ使用スル樣ニナリマシタ
明治三十二年七月時ノ陸軍大臣桂太郎閣下ガ制式ヲ制定サレマシテ三十二年式軍刀ト名付ケラレマシタ

兵器本廠出品

◇百五十糎輕胴型探照燈
此ノ探照燈ノ光力ハ十億燭光デアリマシテ夜間敵航空機ノ來襲ニ際シ之ヲ八粁ノ遠方ヨリ照明シテ高射砲ノ射撃ヲ容易ナラシメ或ハ我防禦飛行機ト協力スルモノデ將來ノ戰闘ニハ對空防禦ノタメ必要缺クベカラザルモノデアリマス
運搬時ハ自動車ニ積載シ停止セバ其ノ機關ニ依リ直ニ電流ヲ發生セシメ照明スルコトガ出來マス

◇裝甲自動車
最近出來タ裝甲自動車デアリマス

◇大喇叭型空中聽音機
敵飛行機來襲ノ場合高射砲ト協力シテ都市等ノ對空防禦ニ使用セラルヽモノデアリマス
晝夜共此ノ機械デ敵航空機ノ來襲ヲ遠クカラ知ルコトガ出來マス

聽音距離	
夜	約十キロ（二里半）
晝	約十キロ（二里半）

◇十四年式輜野戰高射砲
移動又ハ固定トシテ使ヒ得ル飛行機射撃用ノ大砲デ一萬米（約二里半）程ノ上空ヲ射撃スルコトガ出來マス

高	一里半
距離 水平	二里

◇投下爆彈
飛行機及飛行船等カラ投下シテ人馬ノ殺傷ヤ陣地ノ破壞其他家屋ヲ火災セシメタリスル爆彈デアマス

陸軍自動車學校出品

◇木炭自動車
此ノ自動車ハ揮發油ノ代用トシテ木炭ヲ使用スルモノデアリマス。即チ木炭瓦斯發生器カラ生ズル可燃性瓦斯（主トシテ一酸化炭素）ヲ空氣ト混合シテ氣筒内デ燃燒セシメテ動力ヲ得ルモノデアリマス
燃料消費量ハ揮發油一立方ト木炭一瓩ト同等デアリマス
燃料費ハ木炭ヲ使用スレバ揮發油ノ約半額デ足リルコトニナリマス

◇乘用六輪車
此ノ自動車ハ普通自動車ノ通レナイ樣ナ惡イ土地モ自由ニ走レマス且ツ積量ヲ六輪ニ分配シマスカラ普通道路上ヲ運行スル場合デモ道路ヲ損傷スルコトガ少ナイノデス

◇裝輪裝式小型戰車
此ノ戰車ハ道路上デハ車輪デ走リマスガ道路ノ惡イ所、急坂路等デハ裝軌式デ走ルコトガ出來マス

步兵學校出品

◇軍用犬
彈丸雨飛ノ中デ命令ヤ通知ヲ少シノ間違ヒモナク一里位ノ距離ヲ配達スル頭ノ眞サニハ驚ク外アリマセン果シテ斯クモ勇氣デ頭ノ眞イ人ガ居ルデセウカ

糧秣廠出品

◇ズック製洗米器
之ハ野外デ炊事スル場合ニ用フル爲メニ作ツタモノデ不使用ノ時ハ折タヽンデ携行出來ル樣作ツテアリマス

◇運搬嚢
之ハ野外ニ於テ事スル場合ニ用ヒル汁桶デアリマス、不使用時ニハ折リタヽミテ携帶シ得ル樣ニ作ツテアリマス

◇アセチリン炊事燈
夜間炊事用照明ノ爲考案シタモノデアリマス

◇航空用食糧
片手ヲ以テ食ベラレル樣ニ考案シタモノデ航空者戰車等ノ塔乘者用ノ食糧デアリマス

◇航空用水筒（魔法瓶）
飛行機飛行船等ノ塔乘者ハ兩手ヲ使用シテ水等ヲ呑ム事ガ困難ナ場合ガ多イノデ口ヲ以テ吸ヘバ出テ止メレバ自然ニ密閉サレルモノデアリマス

◇沸水車
出征地ニ於ケル飲料水ハ傳染病等ノ爲メ煮沸シ用フルコトガ必要デアリマス。此ガ爲行軍途中デモ煮沸出來ル樣ニナツテ居リマス

◇携帶口糧
戰時出征シタ場合各兵ガ常時携帶スル豫備食糧品デアツテ戰地ニ於テ他ニ給養ノ方法ガナクテ已ムヲ得ナイ場合ニノミ使用スルモノデアリマス
嚢ヲテ容積ヲ小サクシテ出來ル丈輕ノ補給ガ容易ク食用ト携帶ニ便利ナ樣ニ出來テ居ルノデアリマス

◇搬水器
揚水車デ揚水シタ水ヲ自動車又ハ現地ノ適宜ノ運搬具ニ搭載シテ軍隊ニ補給スル爲ニ用フル運水器デアリマス。水ヲ入レナイ時ハ運搬ニ便利ナ樣ニ縮少シマス。其ノ能力ハ一ケノ搬水器六石デアリマス

◇野戰炊事車
本炊事車ヲ步兵大隊ニ二輛ヲ配屬スルトキハ軍隊ニ續行シ行進中ニ所屬大隊ニ要スル一食分ノ炊事ヲ終リ宿營地到着ト同時ニ分配シ爾後二時間ニテ朝晝食ノ炊事ヲナシ分配出來ル樣ニ考案セルモノデアリマス

◇野戰鑿井機
此ノ機械ハ現地ニ井戸ヤ河川等ノ水ヲ得ラレナイ時ニ迅速ニ鑿井シテ地下水ヲ得ル爲ニ用ヒラレル鑿井機デアリマシテ尋常土デ十二時間ニ約五十米ヲ堀ルコトガ出來マス。最近支那事變ノ際大イニ活動致シマシタ

◇野戰パン燒裝置
米ノ不足ナ我ガ國トシテハ追送米ヲ節約スル爲戰地ニ於テ現地ノ小麥粉ヲ利用シ「パン」ヲ給與スル必要アルヲ以テ運搬ニ便且ツ容易ナル如ク考案シタモノデアツテ上、中、下ノ三段組立式トシ重量ハ約四百貫デス
其ノ能力ハ一臺ニテ一日步兵一個聯隊ノ一食分ヲ燒クコトガ出來マス

◇固形燃料
露營地ニテ燃料不足ノ場合又ハ煙ノ立ツコトヲ恐ルヽ場合ニ飯盒炊鎏用トシテ研究製造シタモノデ、アルコールト古綿又ハアルコールト石鹼等ヲ固形ニナシ携帶ニ便ニシタルモノデアリマシテ、平時ニハキヤンピング又ハ登山用等ニ利用セラレテヰリマス

被服廠出品

◇寒地作戰ノ場合ニ於ケル軍隊陣營生活

寒地ニ於ケル軍隊ノ生活ニ就テ次ノ事項ヲ示ス

衣
防寒ノ爲メ毛皮製等ノ防寒被服ヲ著裝シ尙殊ニ寒冷ヲ感ズル上空勤務者用トシテハ電熱應用航空被服等ヲ用フ

食
温食湯茶等供給ノ爲メ野戰炊事車、沸水車、等ヲ用ヒ現地ノ小麥粉ヲ利用スル爲メパン燒竈ヲ裝置ス尙不毛地作戰ノ爲メ野戰鑿井機ニ依リ清水ヲ得上空勤務者ノ爲メニハ航空糧食ヲ用ユ

住
保温上適當ナル構造ヲシタル寒地用天幕ノ内ニ輕便ナル暖爐ヲ焚イテ幕營ス

此ノ以外ニ地上ノ照明等ニ行フ特殊ノ爆弾モアリマス

◇八九式旋廻機關銃
本機關銃ハ最近出來マシタモノデ主トシテ航空機ニ搭載シ敵ノ飛行機ヤ飛行船ニ近ヅキ射撃スルノガ目的デ彈ハ一度ニ百發ヅツ裝塡シテ一分間ニ約八百發射撃ガ出來マス

◇高射機關銃
敵ノ航空機ニ對シ都市等ノ防護チナシ又地上ノ戰鬪ニモ參加シマス彈ハ一分間ニ四百發位射撃スルコトカ出來マス

技術本部出品

◇浮嚢舟
浮嚢舟ハ運搬ニ便利ナル爲メ舟ノ代リニ用ヒラレルモノデアリマス
一、小浮嚢舟ハ斥候兵二名乘レマス
二、中浮嚢舟ハ騎兵用デ軍裝兵十名其ノ他馬具等チ積ム事ガ出來マス
三、大浮嚢舟小部隊ノ渡河ニ用ヒ軍裝兵十二名位乘レマス
四、輕門橋用浮嚢舟ハ筏ノ樣ナモノヲ作リ大砲等チ渡スコトガ出來マス

陸軍科學研究所出品

◇都市毒瓦斯防護
將來ノ戰爭ハ平和ナ都市ニモ毒瓦斯ノ洗禮チ覺悟セネバナラヌ皆サン落チツイテ毒瓦斯ノ入ラヌ避難所ニ逃ゲヨ室ハ密閉セヨ防毒面チ著ケヨ、イベリツト瓦斯ハ消毒セヨ、決シテ慌テルナ

軍用鳩調査委員出品

一、鳩車
戰場ニ鳩通信所チ開クトキ用ヒル鳩ノ舍デアル、自動車又ハ馬一頭デヒク四〇羽入　重量約四百五十瓩

◇軍用天幕ト一般野營天幕
軍隊用天幕ト一般野營用天幕ト青少年訓練用被服等チ陳列ス

千住製絨所出品

◇羊毛及反毛
毛織物ノ原料ニハ如何ナルモノチ使用スルカチ示スタメノモノニシテ最優良品ナルメリイ羊毛中等品ナル雜種羊毛下等品ナル支那羊毛チ陳列ス。マタ安價ナル羅紗原料トシテ新羊毛ニモスリン屑編物屑等チ混入ス

◇製絨所製品
當所ハ羊絨品製造ノ傍ラ試驗的ニ各種ノ製品チ試製シ希望者ニ分配ス

陸軍衛生材料廠出品

◇駄載野戰エッキス放線器械
戰場ニ於テ天幕等隨所ニ於テ自由ニ傷病者ノ診療ニ使用セラル

◇患者自動車
戰地ニ於テ傷病者ノ運搬ニ使用セラル

◇野戰手術臺

◇野戰滅菌器手術燈

◇病院醫扱ノ一部
十八個チ以テ一組トシ野戰病院野戰豫備病院等チ開ク

整備局出品

◇國家總動員
戰ニ勝ツ爲ニハ國ノ凡テノ力チ統制シテ戰場ニ向ケネバナラヌ而モ國民ノ生活ガ困ラヌ樣ニシタイト思ヒマス。一例トシテ一人ノ婦人ノ持物ガ戰場トドンナ關係ガアルカト示シタモノデス

だと抗議をとうとう強行する
宝信八時年北の神毒命 祖の話をする
八郎息さんをとる

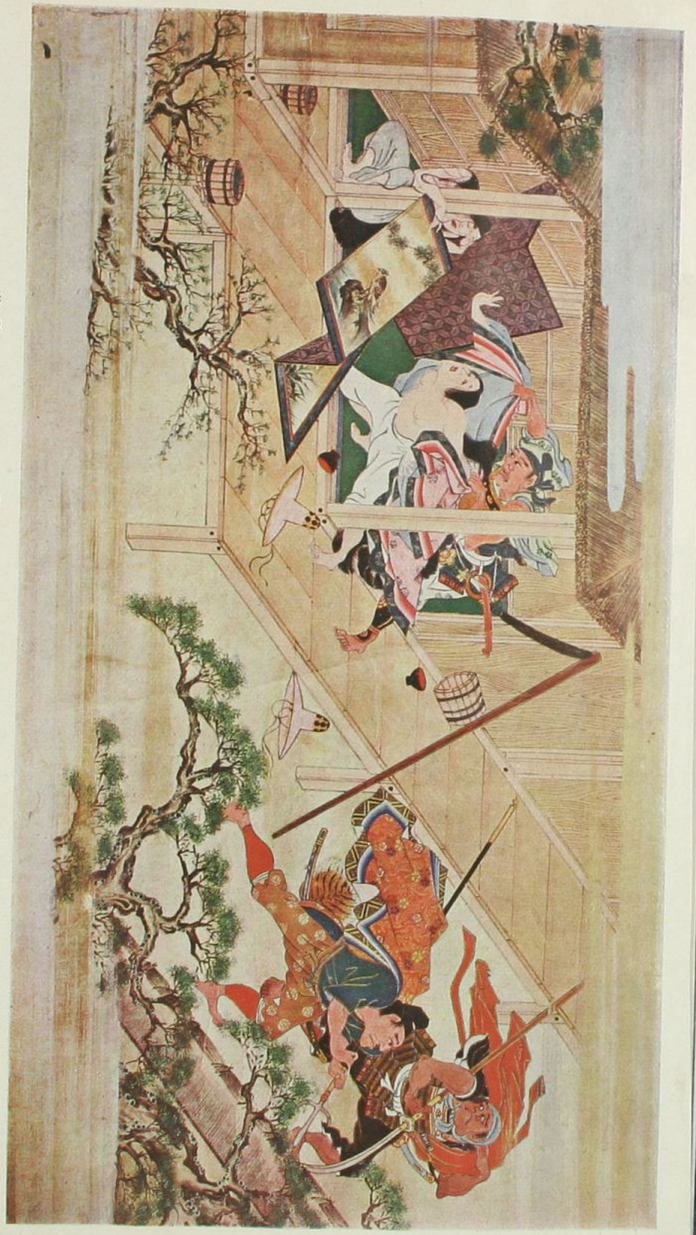
○魚を味よく人のもうまくする八女の魅まである。
あのやとろとろする魅小味噌を煮ても、何をしても
まあ一つそる小味がある北 来往りそうも
魅のほかのがあるとこの小味がそうも。まと海で
又そこ、それの猫も花で、日本指でもこのことが今つけ。
猫も花の早く大きからぎ孤で海流からんで魅
入さんというが八味を拾えた魅る方等お祝
しそうで、魚数もの四海化の流を聞いてある。
ありやメキシコの海元の盛えをすること、湯

複原製

湯の大皇で豆腐を物すること
を言い北が、追って例海化の日本特もの美味さ
こくる味噌する。食指のもの

○長く〳〵と竜と埋没もおれた十二巻の給巻班紙が
北年世を若いんで、西さえ外国人で竜の先を使
来一寺庵の古みのこと、まかに巨資を投じて手を入
れとりまとめ宝の美術界に お目の目件として宣
伝まれた、自合いまる。其の三月一部の美しい四
三月一部の美しい四 な女の一部分の宝物を見るのは、
みる。一行海女部流も流でもあるが無義歌
ものもあるけれども岩倉文化事業の心もおも)るへ
とおられもある。五百人まる大心で、

業



歳所局書一第　巻四第　盤帯中山　筆衛兵又佐岩

模原製

理を究めんことを庶幾す（一人直義）
昧々大戒の如き、北者則ち其の術を著すの（傳の）
改正の医術多く械を用い日本の技術も
く手を用い、産科の術今日長ずる所
研究家の如きは可こ漢方の故を以て
一概に棄つ可きにあらず
○加茂真淵の家集数股の世に流布す、世の好事
の士活字版五冊本の家集を得ん、こんら（寛四
七年）写し、浜松の人某氏の蔵する所なり、
ひ入る。巻尾に刷行の年号も出版所も一切

○産生図説五冊漢方産科の書にして最小七寸
最狭の侍医近義（直義）の著す所也
余ら多忙にして閑を得ず、産生の技術
多く用をなさず、素人と雖も今時に
産科のみとして上棄の
我が産科の術賀川子玄の
許家の実験を積み改
を極めて善きも、難産を治する鉤具を用ゆ
而もこれを得さる人ひ裁断剔解
之れも理す、是れ未だ術の精を得さるの
書の若きの（修高）裁断剔解を悪み
能いずとも多年鍛錬無鉤無裁

印と善(?)云りんてある。此人ハ扨かたきこうまんそ
下戸で飲ハを嗜ます、河なを愛し麦飯とぬか
九晩年堀田原に住しこの書信ものに堀田原の
戯称を称りしとふやうなる「我ものを教くれと」
私の祖りてある事ども森の記ものこ漏んにこ
とを二三補うて見ると仙果の書いてみるやう
稚彦ハ禅学の人ひ、つやめかしいことを書いて
ある人ゆへ不似合ひてあつたことと、現に本人を識つ
てゐる浅倉屋の前の主人からも文くれことがあ
る。稚彦ハ愛書家をひ多く珠
本と花しの艸の珠をひるの師事
考証が書かれてゐるまの珠を通うまの

浅倉屋を訪のて在頃と時刻を考しなう
ふかみるうち時も晩ても晩ても帰ら
を帯ひ山坐を求して訪さうとをかねて
ゐる。南時ハいろくの文人が北吉野を訪れよ
ばかり、荻生徂徠の時代で寺門静軒ものの
談ハいつも胡坐を掻かくのが例であつたと種
彦文ハ謹慎であつたとて寛政へてゐる斯
う指望い人の現のなとそこそこ一ツの書実かあ
る、自分ハ学つて稚彦のの日誌の断簡を所
蔵てゐることがある。例の無異の半紙十枚ほど
すのようもの、例の悪筆ものことが書かれてゐれ
が私の北の日誌を除とした、表紙裏の

様の一字が二寸四方位の大字にて、北の一字が
日徳中の人の全部の通用字にて、注されもおれ。乃ち一々の按の字をもくらべるといふやうなことが
から、北の一字も同じ意味であつたのを見
き人におさめ私乗する斯くと荘彦の拓墨いることが知れるのである。
私の當つた響き庵主射かくの
究の書簡を境として今のやうな
して手元を無いが、その字
こんな尺牘もある長崎
簡ともつた。仙果が浮傳をもいてもみるのも
教しまの書き方の教へてあるのが

北の書簡の本文が、流石に
私訣いあまりのことを言ふてみる。
ハ重宝と拘泥しているぬと
あんなの考証家が
がおもしろい。
言ふて、動もすると
光用の文言ハ手もり
くんばらへの
メイなやうな及心のと
に教くれのとよく似る
手紙の内で荘彦がひとく
が知れる。北の手紙の字と

しいことが書けるのがあらう。
椿彦の逸事や傳記に漏らすのもあることといへ、あの
人が北亭の息子近家であつたことなどがある。あの田
舎源氏をみてもわかるとうまさがかけるが、あの長い
作の絵は、ことごとく精妙のあることは、家藤
の衣服どんでもみな嘴んでおらぬ、源氏あ
の図の時も当時流行をもつて、いろくのよ
うを取り入れたのでもてゐる。椿彦の系統を
引く前田夏繁が文筆はかりでなく書画
骨董の鑑定家とまでなつたのも矢張椿彦
の固有した趣味を受け継いだのであ
らうと自分は考へてみる。

○蜀山翁が狂田の狂歌を編輯し裏表に書
いたものを貫いて買はぬかと勧めに来たもの
がある。そのく読み難いのは甚だしいもやつ
と読んだが、一二ヶ所まで読み得ぬ字
があるけれども大体は次の如くである。
おきことろ、ほんとと云へば、屁つ明り。
あつひあつうちざる。いやいややと云
へばどうやら、小つまの浅黄。志
れてもろし、ちんぴらきい。あらへいさん
だ一と重世帯し、長い詮議は、マア措いて、
こんこれが、りがある。マアひのかん、ざこ
がある。さ、一ツ、氣の合ふた同士。

今の会ハ勝と勝と、こふすう会ハせぬ火
鉢の翁志やうしけや、ふらへてくれと、
よろかよう、ちようつともなして、さつと
笑ふて、あとハ何んすも、おきごんろ。

癸未冬〇月〔小室本〕諸子会於河東一樓
酔歌妓兒輪聴歌座有小田先
生用其語作七日旗亭兒有
講而唱之者、余雖不與其会
而録之

やまのゑゐみ

此候面終ヨ睦文業中ニ置ク

一 漢書六冊　六月大
一 通鑑一冊
一 [illegible]二冊
一 下学邇言三冊
一 [illegible]論二冊
一 下学邇言二冊
一 通鑑一冊
一 外史補六一冊
一 [illegible]録一冊

貴重圖書
影本 第一期複製並に配本書目

承德本古謠集 一卷
　承德三年に寫されたる古歌謠の歌詞を集めたるものにして未だ世上に發表せられざる珍籍なり
　公爵 近衞文麿氏藏

百萬塔陀羅尼 十一卷
　世界最古の印刷物、法隆寺所藏本により、各異版及び寫經のものをも蒐め原型に從ひて模版す
　奈良 法隆寺藏

長恨歌琵琶行 一冊 慶長勅版
　慶長年間後陽成天皇の勅版に係る數部の內の一にして現存するもの唯この一本あるのみ
　京都 林森太郎氏藏

法華經音訓 一冊 至德三年版
　古經の音義の版に成れる最古のものにして他に傳本あるを聞かず
　東京 岩崎文庫藏

複原製

寛永延寶はやり小うた　一冊

延寶四年に刊行せられたる流行小唄集にして此種刊行物の最も古きものといふを得べし、式亭三馬が珍藏したる稀覯書なり

帝國圖書館藏

注十疑論　一帖　建暦元年版

本書は未だ何れの書目にも書誌にも登載を見ざる新發見書にして建暦元年の刊記も具はり字体優麗なる春日版系統のものなり

愛知縣　極樂寺藏

小竹集　一冊　井原西鶴編、貞享三年刊

井原西鶴の編近松の淨瑠璃幷に西鶴が唯一の淨瑠璃作「暦」の景事道行を載するを以つて有名なり、貞享三年刊行傳本至つて少し

京都帝國大學藏

教長古今集註　二帖

仁治二年に寫されたる藤原教長の註釋書、既に學界にその價値を認められゝもの、近年一・二の複製本あれど不備の点多し

標原製

長崎見聞誌　二冊

長崎に於ける蘭館及び唐館の狀景を極彩色にて詳細に圖錄せるもの、傳本極めて稀なる對外資料なり

久原文庫藏

野山獄讀書記　一冊　吉田松陰自筆

安政元年より同四年迄吉田松陰が野山獄中に於ける讀書の書目及び習字の字數等を日々丹念に書き附けたる日記なり

山口縣　前原家藏

右選定の書目以外理事會に於て必要と認めたる貴重圖書發見の場合は臨時變更することあるべし

ハ究から、刀を鞘から抜いた時の心地と同様だとあ
るが、此の事も佩刀時代の譬喩として今も云はれ、
通痛快味ハ全く同じであつたらうと思ふ。
○此の様々の教業に一寸主意ある一新の家が出来
た、一服喫烟するに都合がよい、其ハ甚多庵
合といふ土間に様子棚を置いて骨董を売る
家であるが、此家の特色と云ふ（べき）ハ列品が概ね
品であることと、此等の品を集めつゝある折柄で
広まる合格のものが多く、大抵（這）入る毎に一二
品へ手に入る。日本橋辺ではまだ骨董屋がいくつも
あるが、どの店も価が高く、とても手におへない。
其店ハ其等に較べると自然買ひやす
い。品は多少下等でも決して筋のわるいものでハ
ない、小品ハ或る部数を除いては（根付などの類）
役廻りのわるいものも、（自分のやうな）小品に限つて
蒐めることの好きなものが、高い価を附し難い事情
もあつて、あまりあるに価があへ、尚其上に日々割位
ハ価を引かせるから、自分なんか都合がよく、
此の二週間ばかりの間に獲たものだけでも十
数點と上つてゐる。元来骨董に於南の数
のある自分などへ、従来数を貪る為め、骨拵を愛
すことが出来ない。選擇ハ気が為め寧ろ酒
僻れが手に入つたものは皆な一下康の見所があ
つて架上中のものとなすに足るものである。ここに

佛像 [illegible]

塗金銅観音提厨子入小品 一基
金属厨子入小品塗金両界仏 一基
白檀塗厨子入七仏 一基
塗金両界仏 二人並立 一基
木彫四天像 [illegible] 一基

銀盃 [illegible]

蒔絵硯箱 一個
銀製花瓶 一対

銀製鳥帽子中啓書鏡 一個
銀製かんざし [illegible] 一本

他の雑品 [illegible]

文政宝永度物子 一枚
洋物黄銅帰人提厨子 一基
以上 [illegible] 磁の猿 一対

余か十数点

裏の陳列棚 [illegible] 他種の玩具 [illegible]
そんく役目のあるものを [illegible]
するのである。小品の骨董の [illegible]
こと玩具と迄 別々さるこ [illegible]

[illegible]

多くの人の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

標原製

偶し湖に白鳥を見る外記を心の

女子の持物例へば（この中に潜んでみるやうな）
八重咲の桜等でも季節の移るにつれ、今の
でも女子の用ゐる玩具もときの移かうかつれ、今の
もときである。女子ハやさしい可愛らしいものを
愛するから、自然玩具にも接着するのである。皇
室の御慶事などの折ふる銀盃をお飾り
まるのが例で、即位の大典の如きも無論沢山の
あるの菓子器とも見ハ実用のものよりも
玩具と見てもよいである。民間でも紀念と
いふのを造るが小品とするとき女子の玩具

模原製

の範囲に於ることを玩具と区別する。
小品のあることを玩具と区別する。
ある故に玩具へ近いとの名称の如き小児の
玩ふことを主とするものである。犬猫人形
なども小児の手に大きさのものである。犬猫人形
る大も好む似せ、元より玩具と特に指摘も駁かあ
あり、且つ玩具硝子、いろ〳〵の都部の玩
具を標本的に飾るやうなのも、此の部類に属す
るが、元来二十二年は一種物化美を表するから
困るのである。

口谷口中秋盛田と弥す佛の儒う余学乙卑
大の用を学比と話河し面談す其子豊五卯早
大に漢文を教授し六年餘の間
係かる其の人恩比甚基も
と多出當ること人也。明右恩比訴訟回を市坊を
受皆きえ。中き荒平盛田の著書。余紀行一
二を姪の姪比其の自筆に写さきを請ひ。作の
偽き書前一巻を贈る。犬飼の長翁も、登嶽
を父き報する書こ回官機更き明る春曲
を恵す。別と咬雪毋村一冊も、登山秋の記也
乱き化を楽するき盛田甘四年の
時き偽す。年秋安藤の業政市前と就て知る

標原製

しの北の寺前国学比と依り装潢ちん、中秋題賛
を需し不盡千秋雨を「秋雨」とち、平公尺牘中に加
へ花もて也

三月六の記

岡中古森俗庵所蔵を踏べ右の如くち
明し孔子泰山に登れ小天下彩せと有
心我自乱と鵬内宮潤宇宙を一呑に
ち投と意形と和ち
手掬日生辰科帝血、紫雲白雪
嫡千秋、親孔自在笑業頂、一口
并春六十物
堂堆六十物雨已乱十方世界一切衆生

一おもて我御座ある事今日我
が天上天下唯我独尊ナルカナ是有仏
乃身在為仏之頂より人々積徳修
道并能其高為仏ならん何ぞ此我
爭長短乎、彼の眼毛亀粒ノ如き微塵
焉彼此紛々宛も蚊角上
の見ならん乎小子私有怪大人以為何ん
をや

○此の教華中文行座に交故を通り浴世俗画家
の画料若干を得、鎬木清吉五絃禹兵清忠二
代之記の校下なる条紙に後歌ふ、清方の筆

模原製

改型可ならん。外は一枚表裏
絵を版木ならしむる事とならん
右と聊の路をまず北芽のごとくあるが
ん心無味あり、家前絵一帖に納の
まべし

○本乱寺が修写に大勢力をそしたことは爭ふ可らざる
事実なり豊大閤以双眼の
嬌子が相続しおるを以て彼の
内に給扶を生じ、其両本乱寺と
なるを就て其の執力のあるを
ず、元のごとく徳川時代の長い間本乱寺は公儀に於て
一宗と定て振るひたり。あゝ浄土真宗の

宗祖を得んとしたが容易ならぬ故障が生じ、遂に得ずして止む。本願寺は終始目的を遂げん為め、京都禁裏に運動し、赤江に幕府の命令（軍）勅を下し、いつも欠如こゝに、記憶の五年忘れ大師歸を求めたが、其も目的を遂し得無つた。其の頃浄土宗も亦大師歸を迎えんとして運動を遂げつゝあつた。実に浄土宗の派出所の如き趣があつた。全体徳川幕府の宗教政策から見ると、親鸞を持戒者と見てゐるより、随つて親鸞を優婆塞と同視し、現に公文書にもさることが明かである。幕府の宗教制度に、特殊者でなければ僧となり得ないのを以て、

模原製

のないのであるから、其の祖師とする所と、これ譯である。北陸三国村々萬徳の江戸生活のうちおもてを選んで見ると、其中に文化七年幕府が本願寺の開祖に大師歸を與ふることを指揮したる書面が收めてある。之を見ると幕府が本願寺を見ること

追々被召、不一、就宴義候事右、優渥
寒日候之事ニ候、大師御報謝候儀
可被悼入事ニ候、尤この御心遣ニも
仰渡之上、須臾之間も勤業被修候身分
ニ付、諸儀ニ難申事ニ付、御差留は
無之候得共、記室上人と被申候
ハ遠慮之御被仰渡
候
午(文化七)四月

幕府の思召ニ付、開祖をさん
ぐるまでもある。全体記室上人
ハ一宗を開いたのである
けれども法灯明王大師ニも入滅
ニも勤業を尊ばれた故である。況を法儀と
して尊ばれるのである故、

模原製

尤も一のさうかでもやの例ではあるが、僧の特戒が不備
であるニ付、幕府の処置を非難したのである。此文言
の内の業位とあるのが、記室のことを指すのである。
尤も本記事にハ之を別人として扱
真言宗の如く他宗と比較して
と思ハれる。況ハ戒の疎なるよりハ、従人
ハ宗主のことなるのである。

○春城今の一端ハ前頁ニ録したが、今その校正献呈
から録しとゝる。新写本ニ載つてゐる。
よく。

春城會の一夜 〔上〕

風柯生

山田花櫁

十月二十五日夜、牛込區神樂坂下の待合支店において市島謙吉先生を主賓とする春城會を開催しました、會するもの十五人、折から稍早過ぎる程の春風が外濠に沿ふた樹々を訪れてかゝる歡樂にはふさはしい情景でした。

◇

私共が先生の十七回の誕生日をこの日に選ばしたのは我春城會のうちから四名の代議士を出したからです。けれ共松木、石塚の二氏は立候補され、井、榮安の二氏は目出度當選はされましたが所用で當日缺席されたのは遺憾でした。

◇

然しわざ〳〵新潟から上京された吉田氏、その朝朝鮮から來られたばかりの賀田氏、上越の感觸から語られた大江氏などの話で仲々色彩は豐富でした。

◇

開宴第一私はまづ開會の挨拶を述べました、いふ所は市島先生の古稀を過ぎてもます〳〵壯健なる事を祝し、昨年は四百五十頁に餘る春城漫筆を著はせられ、其態はいよ〳〵流麗を極めると共に肚藏を披き、また圖體的には髮ます〳〵黑きを加へらるゝといふ奇蹟的現象に及して先生の事業は今後にあり、これ我輩相集まりて先生と祝ひ且つ先生の事業を助くる所以であると述べました。

◇

その頭髮きを加ふるの一語には滿座の喝采を博しましたが、これに對し市島先生の謝辭は實に驚くなきのでありました。自分は未だ春城會の事を世話人より承たまはつた時に固辭した、一番つて前島密先生にもこの會あり又現に松久寬氏にも栗園會なるものがあるがいづれもかへつて迷惑に考へられ殊に先生などはその處世に非常に困つてゐられたものである、が、席上の各位はお互にそれ〳〵因緣のある人々だから市島といふものを樽として一年に一度位會合されるのも面白いだらうと考へこれを有繼くお受する事にした、何かお祝のしるしにと考へたが自分の生んだものを以てせば多少意味ありと思ひ近著春城漫筆を呈しますが閑余一讀を賜ひたい、等の言葉がありました。

◇

酒盃は既に卓上に飛んで宴も酣になる頃鶯て幹事より課題として提出してあつた「市島先生に始めて會つた時の印象」について各自が語り合ふ事となりました。第一に井上氏（實業之日本編輯長）でしたが、いかにも市島先生そつくりの身振り口調で語り出したのです。

◇

自分が始めて市島先生に逢つたのは明治二十二年行形亭における同好會の會合においてゞあつた、その時の先生の意氣軒昂たる勇姿は今も眼前にある、しかしながら自分は當時表面は改進黨であつたが內心は自由黨を好みあの松林の中の自由クラブで來島恒喜の意圖を讀拜して父に叱られたもので十七八の血氣の盛年だつたから其後間もなく先生の演說會が沼津にあつた時その壇塗を必聽すべく黃楊の杖を持つて先生の內地雜居に關する演說を聞きに行つたが何かの都合で目的は遂しなかつた。と語つて喝采を博しました。

◇

その時市島先生は莞爾として曰く、あの頃天井は今こそ頭は光つてゐるがそれは非常な美少年で、しかももきかぬ氣の男であつた。その後間もなく僕の支持者となつてから、すつかり甘くもない僕の演說を感心してしまつて今でもそれが殘つてゐると笑られました。

◇

自分が始めて市島先生に逢つたのは明治二十二年行形亭における同好會の會合においてゞあつた、その時の先生の意氣軒昂たる勇姿は今も眼前にある、しかしながら自分は當時表面は改進黨であつたが內心は自由黨を好みあの松林の中の自由クラブで來島恒喜の意圖を讀拜して父に叱られたもので十七八の血氣の盛年だつたから其後間もなく先生の演說會が沼津にあつた時その壇塗を必聽すべく黃楊の杖を持つて先生の內地雜居に關する演說を聞きに行つたが何かの都合で目的は遂しなかつた。と語つて喝采を博しました。

◇

その時市島先生は莞爾として曰く、あの頃天井は今こそ頭は光つてゐるがそれは非常な美少年で、しかももきかぬ氣の男であつた。その後間もなく僕の支持者となつてから、すつかり甘くもない僕の演說を感心してしまつて今でもそれが殘つてゐると笑られました。

山田花櫁

十月二十五日夜、牛込區神樂坂下の待合支店において市島謙吉先生を主賓とする春城會を開催しました、會するもの十五人、折から稍早過ぎる程の春風が外濠に沿ふた樹々を訪れてかゝる歡樂にはふさはしい情景でした。

◇

私共が先生の十七回の誕生日をこの日に選ばしたのは我春城會のうちから四名の代議士を出したからです。けれ共松木、石塚の二氏は立候補され、井、榮安の二氏は目出度當選はされましたが所用で當日缺席されたのは遺憾でした。

◇

然しわざ〳〵新潟から上京された吉田氏、その朝朝鮮から來られたばかりの賀田氏、上越の感觸から語られた大江氏などの話で仲々色彩は豐富でした。

◇

開宴第一私はまづ開會の挨拶を述べました、いふ所は市島先生の古稀を過ぎてもます〳〵壯健なる事を祝し、昨年は四百五十頁に餘る春城漫筆を著はせられ、其態はいよ〳〵流麗を極めると共に肚藏を披き、また圖體的には髮ます〳〵黑きを加へらるゝといふ奇蹟的現象に及して先生の事業は今後にあり、これ我輩相集まりて先生と祝ひ且つ先生の事業を助くる所以であると述べました。

◇

その頭髮きを加ふるの一語には滿座の喝采を博しましたが、これに對し市島先生の謝辭は實に驚くなきのでありました。自分は未だ春城會の事を世話人より承たまはつた時に固辭した、一番つて前島密先生にもこの會あり又現に松久寬氏にも栗園會なるものがあるがいづれもかへつて迷惑に考へられ殊に先生などはその處世に非常に困つてゐられたものである、が、席上の各位はお互にそれ〳〵因緣のある人々だから市島といふものを樽として一年に一度位會合されるのも面白いだらうと考へこれを有繼くお受する事にした、何かお祝のしるしにと考へたが自分の生んだものを以てせば多少意味ありと思ひ近著春城漫筆を呈しますが閑余一讀を賜ひたい、等の言葉がありました。

◇

酒盃は既に卓上に飛んで宴も酣になる頃鶯て幹事より課題として提出してあつた「市島先生に始めて會つた時の印象」について各自が語り合ふ事となりました。第一に井上氏（實業之日本編輯長）でしたが、いかにも市島先生そつくりの身振り口調で語り出したのです。

◇

自分が始めて市島先生に逢つたのは明治二十二年行形亭における同好會の會合においてゞあつた、その時の先生の意氣軒昂たる勇姿は今も眼前にある、しかしながら自分は當時表面は改進黨であつたが內心は自由黨を好みあの松林の中の自由クラブで來島恒喜の意圖を讀拜して父に叱られたもので十七八の血氣の盛年だつたから其後間もなく先生の演說會が沼津にあつた時その壇塗を必聽すべく黃楊の杖を持つて先生の內地雜居に關する演說を聞きに行つたが何かの都合で目的は遂しなかつた。と語つて喝采を博しました。

◇

その時市島先生は莞爾として曰く、あの頃天井は今こそ頭は光つてゐるがそれは非常な美少年で、しかももきかぬ氣の男であつた。その後間もなく僕の支持者となつてから、すつかり甘くもない僕の演說を感心してしまつて今でもそれが殘つてゐると笑られました。

の街頭を理髪の招牌を見る。又佛蘭西の香のするジャズを聴きつゝあるといふ。音樂の喜ばび今の流行の音樂を聴かせる淺草がある。音樂の吹聴びあるとが淺草やらがらとが或る意味を於ては真実で、何人の意味よりも音樂が今の人心に投じて陶酔せしむる。映畫女優の事樂は今や光と共に附隨する。西洋音樂のところで人々は之を聴くやうなつた。但しさく人の感情を現はすに日本人は鐘や琴を聴くことを言ふまでもない。けだし無言を感ずる、葬式を厭忌するからである。

複原製

ある、西洋人は之れを反して祝賀を感ずるも、婚礼の時は寺の鐘を鳴す從來の慣習を厭忌するからである。ジャズ音樂は大衆の為めよりも少數の上流社會を拘束する噪音まるものである。これへ、粗俗な刺激本意のものである。いつの世も低級の音樂は低級の人々に歓迎されるものである。ジャズの流行するのも不思議はない。西洋でこれが流行すると日本も四しくなる。ジャズとは真実の西洋の劇の意味である。

掲げた、二枚目に色男役が掲げたるが例とする

てゐる。二枚目とちがつて直接男後と理解できるのだ。
花形女優が男性を魅するとほゞ同じく二枚目は女性を
描くのだ。志かし色男とちがつて日本の二枚目が果し
て西洋の二枚目と箱まるやや否やは一考を要す
る。日本の古来の劇の二枚目はよりいくしい色
男の名があるやうに、亦た諸々色男全般を力ハ無
りと言ふやうに、二枚目が女性的で、色白く文体細く、弟
のごとく、吹けば飛ぶやうなのが女性を魅するの
とそうでもある。昔の二枚目が鶏姦を役とつとめ
た女性を追かけまわるのが斯やうな両者を意
味する色男の日本と西洋の二枚目とハ

棟原製

マルであらうか。勿論西洋の女性の美が
日本流の白色男がきらいだなどゝいふのでもなく
丈夫が多く二枚目とちがつて
男美女の配を希望するもみる。全体西洋では美
てゐるの比が、近来は勇ましい無抵着が相応ハ
美とされ、どこか人を惹きつける所のあるのを
二枚目とする。比かく日本の女性などが見て、あんな
ものがと呆然とやうな人気があつて、西洋
の女性がヤンくというのが狂猿の気
が人を乱すもの憂のすくなくもある。中には人気
なか要、そう、甲斐人気がありそして同じ役
うものもある。亦一時大いに人気

ワーナー・ブラザース社特作發聲映畫

ノアの箱船

（全十一巻）

原名 "NOAS ARK"

破壊した鐵橋――漆黒の闇に篠つく豪雨の中を、巴里からコンスタンチノープルへと驀進する急行列車は、アッと云ふ間に一大音響を立てゝ、墜落した。乘り合せたアメリカの青年トラヴイスと、其の親友アルの二人の青年は、マリーと云ふ獨逸の乙女を助けて、程近くの宿屋へと避難したが、マリーの美しい姿に邪心を起して、其の夜更け彼女を襲つた、同じ避難者の獰猛なロシア將校がその手から、再び彼女を助け出したトラヴイス青年は、アルと共に曉を待たず出發した。

さうした出來事にいつしか相愛の身となつたトラヴイスとマリーの二人は、夢の樣な樂しい日を送り迎へてゐたが、折から歐洲大戰の火蓋は切られ、遂にはアメリカさへも參戰した。アルの激勵を受けたトラヴイスは、憂國の志抑へ難く、マリーとの斷ち難い愛着を斷つて戰場に向つた。

後に殘されたマリーは、トラヴイス戀しさの一念に、戰線にある酒保の踊子となつて戀人を探し求めて歩いた。所が列車墜落の夜マリーに對して邪心を抱いたロシア將校は、聯合軍の情報部に勤務してゐる幸ひ、彼女が己が意に從はざるを怒り、彼女を落入れて獨軍のスパイの如く思はせた。哀れ彼女が捕へられて、銃殺されやうとした時に、彼女に銃を向けた兵士の中に交つてゐたトラヴイスは犧牲者がマリーであるのを知り、事の意外に驚然として驚いた。そして二人は相擁して、相會ふた喜びと其の不運に泣いた。然し其れも如何ともする術は無かつた。マリーを救ふトラヴイスも共に、正に戰場の露と消えやうとした時、獨軍の砲彈が間近く炸裂して、擊つ者も擊たれる者も、共に陷沒した地下室へと生埋めにされた。

トラヴイスもマリーも、將校も牧師も。

彼等は地下室で空しく救ひの來るのを待つよりほか無かつた。そして牧師は歐洲大戰をかのノアの大洪水に譬へて說いた。洪水によつて人々が邪惡より救はれた如く、血の洪水によつて世は暗黑より救はれるであらうと、

物語は五千年の昔に遡る……。

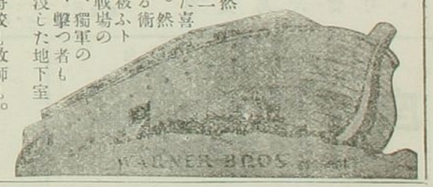
解說擔當　芝　田　櫻　華

淺　草　渡　邊　秀　雄

仙　石　雷　蹊

新　宿　南　虎　雄

仙　泉　石　雷　秀　夫



原作……ダリル・フランシス・ザナック氏

脚色……アンソニー・コールドウエー氏

撮影……ハル・モーア氏

監督……バーニー・マッギル氏

ミヒヤエル・クルティーツ氏

配役

マリー（ミリアム）……ドロレス・コステロ嬢

トラヴイス（ヤペテ）……ジョージ・オブライエン氏

ニコロフ（ネヒリム王）……ノア・ピアリー氏

ヒルダ……ルイズ・ファゼンダ嬢

アル（ノアの子ハム）……ギン・ウイリアムス氏

牧師（ノア）……ポール・マカリスター氏

江戸名所と画引かつか如
してあるのも、手軽い為
年を経ても今の変化の
を指し得ること。雲火の大災が都門を壊滅し
たとき、江戸時代のものとも
とは、此の名不園が出来た後の大正作品なるが
のごとく、却つて広々と悟長く郭あ
進出し、廃墟の整理と共に復興無論を
尋ね難きまでも変
ること聖駕帝中を巡幸あらせられ。折柄、北国
を展観し、年華い無量の感慨に
かあらん。

三月八日記

○南海紀文という大富豪の本伝一冊、頃ろ珍本
孫大帝の深川遊侠ならびに伝いの、掘抜井の
此名もの杜撰ならを
前の偽書木定表
知し、又こと考証をかく
浜遷と異なる所あり、定説の西丸のまゝ
養老あり、蔭と作くも西丸の句読の
あり時の外回も
まゝ北条の記録
韓泊カラトマリの船毋持
手なり重石二つを
あり、孫大帝ハ筑前
文八の持船伊勢丸の
記とも二十人回乗と

寶暦癸未の年福島の舎来を務め乗り生
[illegible]初めて九州大阪おゝ往後
[illegible]木を務めまんを書清狂
こと(かんとする金)中難風に遇ひて万死千の漂
流ボルネヲル漂着し久々里奴と使役せらる[illegible]
[illegible]の船と乗てえもいはれぬ苦を経歴し高砂の船に乗
[illegible]王を経て同僚のごとく死亡のもの
[illegible]思議な生命を得て北の業記を
[illegible]人も無味を覚ゆるものあり附そ僕かん十部
[illegible]拠東肥士の手元流寓中
[illegible]限御制(同志と銘つとゆう極めて稀覯の
書なり、定遠の文化九年六月発し、好大なり

橿原製

笑に先だつ五年にて死す、漂流記中生
色のもの、越の富もとして傍人ともなれども余の富田すること
初めて手の付ける珠のごとくにして二十四の儀を改
つて集まるがごとし

大日本史を著すこと、漂流記中生
十七才とある二年漂
ラ島に海つて、漸くに故の
船あり、それと乗つて帰朝の時二
[illegible]ども来る
[illegible]朝まで[illegible]
[illegible]ことあるそのこ
と(文)

二月八日記

向島公園の完成のあかつきこの一
句を思い立ち、その日曜を幸とし女児を伴な
先つ浅茅の秘香を尋ね
て出で、北堤公園ところきん
手漕機船から川汽船
うち行く、既に吾堤と植へられ
日堤の川に臨む所まで
なお吾堤し大いに面目を改めむる一端を看取し
得たりその言間に上陸して兄さん北堤公園
河岸を辿ると、いつしか文化的建築
と改まり、長命寺桜餅もともの地を去って
言問団子に止めく文化建築を誇りがち。高

東京製

んとも上手の方かんがえ
の検討に譲り歩を進めて
吾堤(吾妻橋)に移りて教東すれ
中央よりやく橋を控えそうに
控く、住地となりて
此の住地にある木を利用し
尚の風致を備ひる木を
植ふるのと思はれる。三圍神
らの半島神社を堤上より
のべ一大新橋の眼目を
立向橋より橋下に公園
も行く、更に上手中の

車の為めまする橋梁そ
今ご楽我の村記中ーそ
臨んだ工事事務所（仮
小屋）と就く、隅田公園の
の傑作ともふべきもの
公園ることのそ有
の日ごの如くなるん
おます満生十一めの。
時の墨堤全部恐慌と
るのあるを感のる楽
へに二日と来るまと心
免ずも此の大規模の工

複原製

なるの楽なとうみを得
七種くべし挑条件
らるべし余の利用
三月十日夜寝後枕上
事件の喊起り此
乱して驚死
哥を従え陸軍
傷つき列
十年間家族
深し、左の

素晴しく進歩した 各兵科の機能

陸軍記念放送の實演

◇……夜七時二十分

先づAKから陸軍少將林桂氏がけふの此の記念催しに就いて大略の說明をされることになつて居ります

今日は日露戰爭の記念日として全國の各地でいろ〳〵な催しが行はれまして、今から丁度廿五年前あのロシヤに對し、我國民が眞に一つの心となつて眞劍に戰ひ、遂に

國難を

立派に打ち拂ひましたことを充分に思ひ起されましたが、これから放送いたしますのは陸軍として日露戰爭からこの二十五年の間の改良進歩の跡をとり入れて、新しい機械や兵器などを加へ、今日の戰の仕方を手短かにラヂオにうつせる限りでいたして見るつもりであります、それでラヂオにひびきます軍隊は丁度皆んでゐるのであると云ふところをこのラヂオを通じて一手におさめ皆さまと御一緒に聞きとり、擧國一致振りの一端にそなへ、二十五年前の先輩の意氣にこたへ、又當時の忠勇なる人々に、今日の進歩振りを報告したいのであります

六個師團のありました、仙臺、東京、名古屋、大阪、廣島、熊本の各地でありまして、それぞれ十五分間づつの受けもちで

連鎖的

にやつて、凡そ一つの場面の戰になるように、つないで見たいと考へて居ります、これはラヂオ動員と名をつけ、放送局としても初めてのこゝろみださうで御座います、この心持は陸軍で申しますと、全國各地方の人々が、その土地の軍隊に入り、別々のところで、別々の務めや演習をいたして居りますが、しかしその心持は皆一つであつて、ひたすら君に仕へ

國に報

いるの道をはげ

仙臺（第二師團）

非常呼集

歩兵若干
砲兵若干

◇……午後七時卅分

師團命令を携へたオートバイ傳令がけゝましく第四軍司令部にかけつける、週番司令は直に非常呼集のラッパをふかせる、兵舍内に於いては兵員一時に武裝し武器をとつて舍前に整列、人員點呼がある、つゞいて騎兵軍隊に於いては師團司令部護衛の任務を受けた一個部隊の集合、馬の蹄の音をひゞかせる、次に野砲隊に於いても非常呼集の命令が傳はるや、兵卒は營庭に集合して、砲手班と觀者班に分かれて、各々砲廠と既舍に走りつける、既舍の中ではくらをおいたり、繩具をつけたりする、金物のすれる音や厩者の指揮の聲、馬のいなゝき等既舍の中の有樣が聞へる、やがて中隊長の號令勇まく宮城の原に向つて、砲車縱隊の前進を開始する

名古屋（第三師團）

飛行隊の出動

並に空中戰

飛行隊若干

◇……夜七時四十五分

飛行場にけたたましき電鈴が鳴る渥美半島と鳥羽の哨監視哨から十數機の敵機が名古屋市に向つて飛んで來るのを報告する、サイレンの警報はけたたましく鳴り、こゝに飛行隊の出動となる、轟爾飛行機數臺は爆音勇ましく空に舞ひ上つて行く、高射砲のとどろき、機關銃の音、しばらくは地上と空中との大戰闘が演ぜられる

廣島（第五師團）

砲兵の射撃指揮

並に空砲射撃

砲兵一中隊

◇……夜八時

中隊長は陣頭に劍をふるつて、いさまし砲車縱隊の陣地侵入、中隊長の勇ましき射撃號令や通信班の活動、彼我の砲聲のとどろき、銃聲をもつて戰闘間にかける活動の有樣が聞える

大阪（第四師團）

河川攻防演習

歩兵若干
工兵若干
機關銃若干

◇……夜八時十五分

演習は淀川際付近で行はれる、彼我兩軍は淀川をはさんで相對峙してゐる、味方の工兵は水中の障害物を爆破する、煙幕は川一面を掩ふ、攻撃軍の擧舟機は兵員を乘せてスクリューの音勇ましく波を蹴つて前進する、對岸の防禦軍からは小銃、機關銃を浴せかける、攻撃軍はこれに應戰し、こゝ暫く砲聲、銃聲、發動機の音、かくして戰はまさに最高潮に達する、攻撃軍はつひに敵陣地に上陸する

熊本（第六師團）

歩兵と戰車の協同突撃前進

戰車二輛
歩兵若干
機關銃若干
工兵若干

◇……夜八時卅分

機關銃、歩兵砲、或は砲兵の砲聲に始まり、歩兵部隊が戰車と共に前進を開始する、戰車は地響きをたてゝ敵陣地に突入し、あらゆる障害物を踏みにじつて突き進み、歩兵は或は停止して射撃し、一進一退して敵に肉薄する、つひに敵陣地を占領する、かくて演習の幕を閉ぢる、演習中止の喇叭が鳴る

東京（近衛師團）

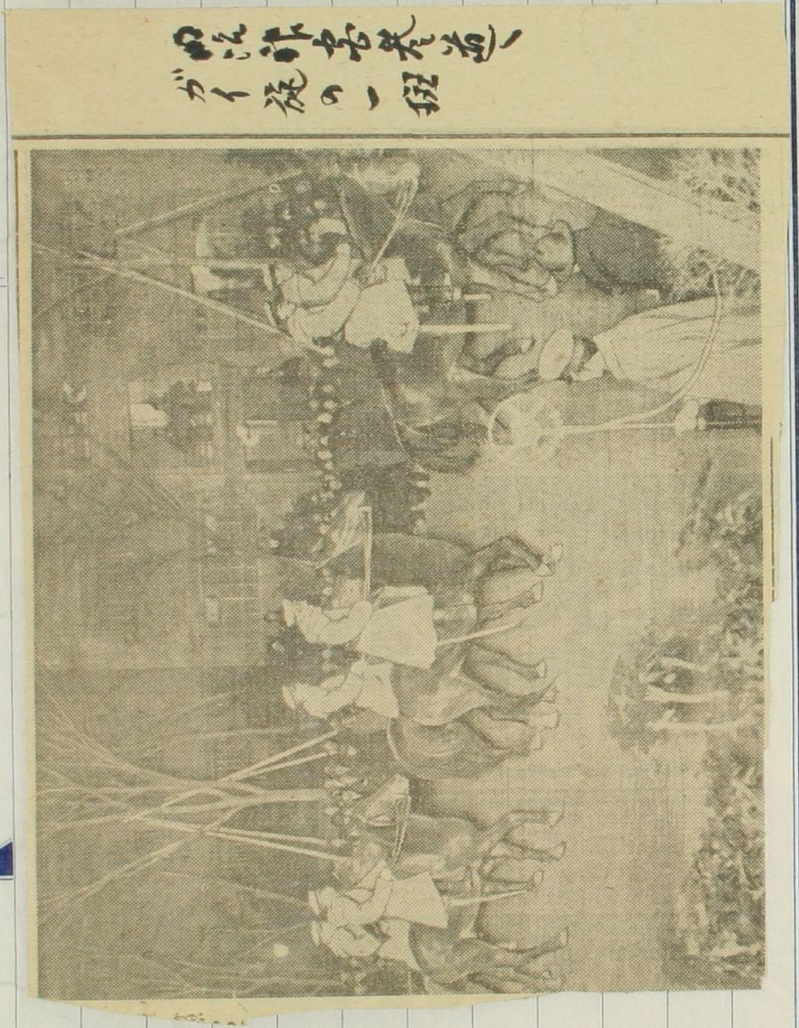
—明治神宮表參道より—

各兵科の凱旋行進

◇……夜八時四十五分

歩兵のラッパ隊を先頭に歩兵の行進、つゞいて軍樂隊の演奏につれて騎兵、野砲の各特科隊の前進、次にサイドカー隊が勇ましく縱列をつくつて進む、次には自動車、砲車が大きな地響きを立てゝ通る最後に陸軍行進曲の演奏をもつて陸軍記念放送の幕を閉ぢる

標準製



ぶんぶん飛ぶ矢を逃れ、
がく陵の一段

以下
9丁
白紙

最も愛せる歌舞妓屏風（四枚折）　（故岸田氏藏）　松田福一郎氏所藏